

朝鮮總督府官制中改正ニ關スル樞密院ニ於ケル  
想定質問答辯資料

秘

朝鮮總督府官制中改正ニ關スル樞密院ニ於ケル想定質問答辯資料

第一 總論

一 本機構改革ノ重點トズル點如何

二 現機構ニテハ時局下緊要ノ諸對策遂行ノ圓滑敏速ヲ期セラレザル

ヤ

三 法制、豫算、企畫事務ヲ統合シテ總務局設置ノ意思ナキヤ

四 厚生局ト學務局トヲ統合シ人ニ關スル行政ノ統合ヲ徹底セシムルヲ

可トセズヤ

五 警務局主管事務ハ之ヲ司政局ニ統合スルヲ可トセズヤ

六 經濟行政ノ統合ノ趣旨ヨリ農林、殖産ノ合併又ハ之ニ財務局理財

課ヲ統合スルヲ可トセズヤ

七 交通行政ノ統一ノ見地ヨリ鐵道、遞信、土木ヲ合併シ一局トスル

ヲ可トセズヤ

八 本改正ニ伴フ人員及經費ノ増加如何

九 朝鮮總督府ノ局長ハ各省ノ局長ニ比シ官等俸給共上位ニ在ルガ其

ノ理由如何又之ヲ引下ゲル意思ナキヤ若シ現狀ノ儘トスルナラバ局

ヲ擴大シ局内ニ部ヲ設クル制度如何

一〇 厚生局、司政局其ノ他本府機構改正ニ伴ヒ地方廳ノ機構改正ノ

要ナキヤ

一一 朝鮮ニ於ケル官廳事務再編成ニ依ル職員減員ノ狀況如何

一二 不要不急事務整理ノ狀況如何

第二 厚生局

- 一三 厚生局設置ノ理由如何 一五
- 一四 衛生課ト保健課トニ分離スル理由如何 一七
- 一五 今後ニ於ケル厚生行政ノ重點トスル點如何 一八
- 一六 内地ニ於ケル各種厚生施設ハ其ノ儘朝鮮ニモ實施スルヤ 一九
- 一七 朝鮮ニ於ケル保健衛生施設ノ現狀竝ニ衛生狀態如何 二〇
- 一八 今後ニ於ケル保健衛生行政ノ重點如何 二一
- 一九 朝鮮ニ於ケル内鮮人別人口増加ノ趨勢如何 二二
- 二〇 朝鮮ニ於テハ内地人ノ増加策ヲ講ジシツズリヤ 二三
- 二一 朝鮮在任内地人及其ノ子弟ノ健康其ノ他ノ狀況如何 二四
- 二二 朝鮮ニ於ケル人口政策如何 二五
- 二三 朝鮮ニ於テハ國民優生法ヲ施行スルヤ 二六
- 二四 朝鮮ニ於テハ國民體方法（所謂體力管理）ヲ實施スルヤ 二七
- 二五 朝鮮ニ於ケル結婚及出産ノ獎勵政策如何 二八
- 二六 内鮮人間ノ結婚ニ對スル政策如何 二九
- 二七 朝鮮ニ於ケル社會福利施設ノ狀況如何 三〇
- 二八 專變下朝鮮ニ於ケル衣食住等ノ生活問題ニ對スル對策如何 三一
- 二九 朝鮮ニ於ケル銃後對策及軍事援護事業如何 三二
- 三〇 朝鮮ニ於ケル勞務需給狀況及勞務動員計畫如何 三三
- 三一 今後ニ於ケル勞務對策如何 三四
- 三二 朝鮮ニ於ケル勞働立法ノ狀況如何 三五
- 三三 朝鮮人勞務者ノ能率如何 三六
- 三四 朝鮮人ノ技術者又ハ勞務者トシテノ適應性如何 三七



- 三五 時局下朝鮮ニ於ケル勞働爭議ノ狀況如何又之ト民族問題トノ牽聯如何 四五
- 三六 勞働者ノ内地渡航ニ對スル方策如何 四六
- 三七 内地渡航勞務者ニ對シテハ朝鮮總督府ハ訓練其ノ他ノ對策ヲ講ゼリヤ 四七
- 三八 内地ニ於ケル朝鮮人勞働者ノ狀況及對策如何 四九
- 三九 協和會事業ノ狀況如何 五〇
- 四〇 事變終了後ニ於ケル内地渡航勞務者ノ處置方針如何 五一
- 第三 殖産局改組 五二
- 四一 殖産局改組ノ理由如何 五三
- 四二 鑛山課ヲ鑛政課ト特殊鑛物課ニ分割スル理由如何 五四
- 四三 朝鮮ニ於ケル鑛業狀況如何 五五
- 四四 朝鮮ニ於ケル重要鑛物増産計畫並ニ其ノ實績如何 五六
- 四五 朝鮮ニ於ケル産金ノ狀況及將來ノ政策如何 六一
- 四六 電氣ニ關スル事務ヲ遞信局ヨリ移管スル理由如何 六三
- 四七 瓦斯ニ關スル事務ヲ遞信局ヨリ移管スル理由如何 六四
- 四八 電氣ニ關スル行政機構ヲ内地ニ於ケル機構ト異ニスルモ差支ナキヤ 六五
- 四九 電氣ニ關スル事務ハ企畫部ノ所管トシ又ハ土木課ト關聯セシムルヲ適當トセスヤ 六六
- 五〇 朝鮮ニ於ケル電氣事業ノ現状及電力管理ノ方針如何 六七
- 五一 殖産局ノ分課ニ付テハ水産課ハ之ヲ殖産局ニ置クハ合理的ナラ 六八





朝鮮支那人移民ノ狀況及之ガ對策如何

又商工課モ改組ノ要アルニアラズヤ  
五二 殖産局ハ改組ニ依リ其ノ所管事務一局長ノ擔任スルニハ膨大ニ失セズヤ  
六八

五三 殖産局ニ勅任事務官ヲ設置スル理由及其ノ擔任事務如何  
六九

第四 企畫部

五四 企畫部ヲ經常化スル理由如何  
七一〇

五五 國土計畫事務ヲ企畫部ニ所屬セシムル理由如何  
七一

五六 朝鮮ニ於ケル國土計畫事務如何  
七一

五七 調査官設置ノ理由如何  
七一

五八 物價調整課ヲ企畫部ニ移管スル理由如何  
七一

五九 企畫部主管事務ト厚生局ノ勞務事務及殖産局主管事務トノ關係如何  
七一

六〇 企畫部所管事務ヲ人的物の資源ノ統制運用ノ綜合的事務ニ止メ物的配給事務ハ之ヲ生産主管局ニ移管スルヲ適當トセズヤ  
七一

六一 物資ノ生産及配給ハ物資別ニ一貫作業の態勢ヲ執ルノ要アリト認ムルガ如何  
七一

六二 朝鮮ニ於ケル重要物資ノ配給狀況如何  
七一〇

第五 司政局

六三 司政局設置ノ理由如何  
八一

六四 外事部ハ昭和十四年設置セルニ今回又之ガ廢止ヲ行フ理由如何  
八二

六五 外事部ノ所管事務ノ内容及分量如何  
八三

六六 對滿支那人移民ノ狀況及之ガ對策如何  
八四



又商工課を改組ノ要アルニアラズヤ  
五二 殖産局ハ改組ニ依リ其ノ所管事務一局長ノ擔任スルニハ膨大ニ  
失セズヤ

五三 殖産局ニ勅任事務官ヲ設置スル理由及其ノ擔任事務如何  
第四 企畫部

五四 企畫部ヲ經常化スル理由如何

五五 國土計畫事務ヲ企畫部ニ所屬セシムル理由如何

五六 朝鮮ニ於ケル國土計畫事務如何

五七 調査官設置ノ理由如何

五八 物價調整ヲ企畫部ニ移管スル理由如何

五九 企畫部主管事務ト厚生局ノ勞務事務及殖産局主管事務トノ關係

如何

六〇 企畫部所管事務ヲ人的物の資源ノ統制運用ノ綜合的事務ニ止メ

物的配給事務ハ之ヲ生産主管局ニ移管スルヲ適當トセズヤ

六一 物資ノ生産及配給ハ物資別ニ一貫作業的態勢ヲ執ルノ要アリト

認ムルガ如何

六二 朝鮮ニ於ケル重要物資ノ配給狀況如何

第五 司政局

六三 司政局設置ノ理由如何

六四 外務部ハ昭和十四年設置セルニ今回又之ガ廢止ヲ行フ理由如何

六五ノ二 外務部廢止ニ伴ヒ其ノ所屬課ハ之ヲ厚生局、官房等ニ移管  
スルヲ適當トセズヤ

八三ノ二

- 六七 國民總力課ヲ司政局所管ニ移ス理由如何 八五
- 六八 朝鮮ニ於ケル大政翼賛運動ノ狀況如何 八六
- 六九 司政局事務ハ彼此脈絡ナク殊ニ土木課ヲ存置スルガ如キ雜居的存在トモ稱スベク一局ヲ構成スルニ適當ナラズト考フルガ如何 八八
- 七〇 司政局ニ勅任專務官ヲ置ク理由及其ノ擔任事務如何 八九
- 七一 「司政」ナル名稱ヲ附シタル理由如何又其ノ前例アリヤ 九一
- 第六 其ノ他
- 七二 事變下朝鮮ノ統治政策ニ於テ重點ヲ置ク點如何 九二
- 七三 時局下帝國ノ國防、食糧、生産力擴充等ニ朝鮮ノ寄與セル點如何 九四
- 七四 朝鮮ニ於ケル生産力擴充計畫ノ實績如何 九六
- 七五 事變下朝鮮人ノ動向如何 九八
- 七六 朝鮮ニ於ケル治安狀況如何 九七
- 七七 朝鮮ニ於ケル志願兵ノ狀況如何 一〇〇
- 七八 朝鮮人ニ對スル參政權及兵役ニ對スル方針如何 一〇二
- 七九 創氏制度實施ノ狀況及其ノ統治上ニ及ボセル效果如何 一〇四



第一  
總  
論

M-0028

0013

一 本機構改正ノ重要トスル莫如何

重莫トスル莫ハ別紙ノ説明書ニ於テモ述ベタルカ如ク現下國防國家体制下ノ國家的要請及朝鮮統治上ノ理由ニ基リ緊要ノ諸対策遂行ノ円滑、敏速ヲ期スル趣旨ノ下ニ左ノ四莫ニ付總督府機構改正ヲ為サントスルモノアリマス

一 人的資源乃至其ノ生活ニ関スル行政ノ統一強化ヲ圖ル為内務局及警務局ニ分属セル當該事務ヲ統合シテ厚生局ヲ設置スルコト

二 内治ト在外朝鮮人行政トノ間ニ一貫性ヲ保持セシムル如ク機構ヲ整へ且努カテ部局ノ統合ヲ圖ル趣旨ノ下ニ厚生事務分離後ノ内務局及國民總力課ト外事部トヲ統合シテ司政局ヲ設置シ内務局及外

事部ニ之ヲ廢止スルモノ

三 生産力拡充ニ関スル事務就中電氣及鉱産關係事務ノ統合拡充ヲ圖ル為殖産局ヲ改組スルコト

四 國家總動員体制ノ進展ニ即應シ企畫部ヲ經常機

構ニ改メ其ノ強化ヲ圖ルコト

以上示アリマスカ右改組ニ當リテハ部局ノ増設ヲ為サス又所要人員モ最少限度ニ止ムルコトヲ趣旨ト致シマシタ



二 現機構ニテハ時局下緊要ノ諸對策遂行ノ圓滑敏速ヲ期セラレザルヤ

今回ノ機構改正ノ重點トスル所ハ(1)人的資源ニ關スル行政機構ノ統合強化(2)右ニ伴フ一般の行政事務擔任部局ノ再編成(3)生産力擴充關係事務ノ統合擴充(4)國家總動員態勢ノ進展ニ伴フ企畫部ノ經常化及強化(5)四點ニ在ルノデアリマスガ右ハ朝鮮總督府トシテ時局下緊要ノ諸對策ノ圓滑敏速ナル遂行ヲ圖ル爲ニハ是非共必要ナル機構改革デアリマシテ殊ニ人的資源ニ關スル行政ハ當面ノ勞務對策事務ノ圓滑ナル遂行ヲ圖ル爲ニモ又戰時下及戰後ノ統治對策ノ重點ヲ置カルベキ點デアルトノ政治的考察ノ上カラモ是非共之ニ專念スル部局ノ新設ヲ必要トシ又生産力擴充事業ノ圓滑敏速ナル進展ヲ圖ル爲勞務、電氣、礦産乃至ハ國家總動員ニ關スル事務ヲ管掌スル部局ノ統合強化ヲ圖ルノ緊要ナルヲ認メ今回ノ改正ヲ企圖シタ次第ヲ御座イマス

三 法制、豫算、企業事務ヲ統合シテ維務局設置ノ意思無キヤ

御尋ネノ點ニ付テハ實ハ充分考究致シマシタノデアリマスガ朝鮮總督府吏クノ機構ノ問題デモ無キ様ニ存シ今回ノ案ニハ斯ル改革ハ意圖シテ居リマセン尙朝鮮總督府ノ機構ニ於テハ政務總監ガ事實上總務局長ノ役割ヲ勤メテ居リ政策ノ立案、行政ノ運営共政務總監ニ一スル組織ニ相成ツテ居リマシテ彼此摩擦ヲ生ズルガ如キコト無キ様ニ組織ヲモアリマスシ實情モ亦然リト申上ゲテ宜シイト存スルノデアリマス又豫算、法制、企業ノ三者ヲ掌理スル局長ト事實上副政務總監ノ地位ニ在リマシテ運営ノ如何ニ依リマシテハ上層ノ機ガ無イテモ無イコトト存セラレ又右三者ノ事務共總督府トシテハ何レモ中央ニ折衝事務ヲアリマシテ始メト一年間ノ大部分東京駐在ノ如キ結果トモ相成ル虞アリ

3  
リ彼此諸事情ヲ審ルニ尙研究ヲ要スルモノト存セラルル次第ヲ御座イマス



四 厚生局ト學務局トヲ統合シ人ニ關スル行政ノ統合ヲ徹底セシムルヲ可トセズヤ  
 厚生局ニ於キマシテハ勞務、社會事業、保健、衛生等  
 人ニ關スル物質的、肉體的方面ノ行政ヲ分掌シ學務局  
 ニ於キマシテハ教育、宗教等精神的方面ノ行政ヲ分掌  
 スルノデアリマシテ均シク人ニ關スル行政トシテ之ヲ  
 統合スルノハ一理御座イマスガ半島ニ於ケル厚生行政  
 ハ事變下ニ於キマシテ最モ重要ナ行政事務デアルノミ  
 ナラズ其ノ量モ亦急激ニ増加シツツアルノデアリマシ  
 テ之ヲ一局ニ統合スルコトニ致シマスト一局長ノ負擔  
 が過大ニ失シ他面學務行政ハ半島新附ノ同胞ヲシテ皇  
 國臣民化スル百年ノ大計トモ稱スベキ併合以來最モ力  
 ヲ注イデ參リマシタ部門ノ一デアリマシテ事變以來皇

國臣民タルノ自覺ガ急激ニ昂揚シツツアリマス今日學  
 校教育ヲ通ジテ學生、生徒、児童ニ對シ、青年團等ノ  
 組織ヲ通ジ青年層ニ對シ、社會教育、宗教行政ヲ通ジ  
 一般民衆ニ對シマシテ皇國臣民タルノ信念ヲ強固ナラ  
 シメ内鮮一體ノ理想ヲ完成實現シナケレバナリマセヌ  
 由ツテ人ニ關スル物質的、肉體的部門ノ行政ハ之ヲ厚  
 生局ニ、精神的部門ノ行政ハ之ヲ學務局ニ分掌セシメ  
 其ノ相關連スル部分ニ付テハ總督府ノ綜合行政機構ヲ  
 ル特質ヲ活用シマシテ緊密ナル連絡ヲ圖ラシメ其ノ運  
 用ニ付マシテ萬全ヲ期セントスル次第テ御座イマス



警務局主管事務ハ之ヲ司政局ニ統合スルヲ可トヤズ

ヤ

警察行政ハ施政ノ全分野ニ亘ツテ居リマスノデ司政局  
他ノ行政ト同様之ヲ司政局ニ統合スベシトノ論モ尤  
モナル御意見デアリ内地ニ於テモ内務省ノ一局ニ於テ  
之ヲ分掌シテ斗ルノデアリマス朝鮮ニ於テハ新附同  
胞ノ統治ナル特殊ノ事情カアリ治安維持ニ関スル事務  
ニ付テハ當初別ニ警務總監部ヲ設置シタ沿革ニ徴シマ  
シテモ併合以來施政ノ第一段ノ眼目デアツタノデアリ  
マシテ最近漸ク民心ノ動向ハ好轉シツツアルノデア  
リマスガ蘇聯邦、滿洲支那ニ近接シテ居リ且事変ノ長  
期化、世界情勢ノ變轉ニ伴ヒ必ズシテ樂觀ヲ許サズ機  
構改正後ノ警務局ハ警務、防護、經濟警察、保安、圖

書ノ五課ヲ以テ構成セラレ其ノ事務量相當量ニ上ルノ  
ミナラズ其ノ性質上急速果斷ノ處置ヲ措ル必要カアリ  
マスノデ別ニ一局ヲ存置シ半島ニ於ケル治安ノ維持ニ  
專念セシメルト致シマシタ



六 經濟行政ノ統合ノ趣旨ヨリ農林、殖産ノ合併又ハ之

ニ財務局理財課ヲ統合マルヲ可トセズヤ

經濟行政ハ農林、商工、金融ニ夫々相關聯スル所多ク

此等ニ關スル事務ヲ出來得レハ統合スルハ望マシキ

コトアリマスノテ産業經濟行政ニ最モ關係ノ深イ電

氣及瓦斯ニ關スル行政事務ヲ遞信局ヨリ殖産局ニ移管

致シマシタノモ此ノ趣旨ヨリ出タヌノデアリマスガ産

業經濟ノ發達ニ伴ヒマシテ其ノ行政機構モ亦益々膨張

ニ特ニ戰時經濟統制ノ課他ニ伴ヒ其ノ事務量、急激ニ

増加シテ參リマシテ農林局ニ於キマシテハ農政、農産

畜産、糧政、食糧調査、土地改良、林政、林業、八課

ヲ擁シマシテ食糧其ノ他ノ重要農畜林産物ノ増産確保

ニ邁進シツツアリマス 又機構改正後ノ殖産局ニ於テ

ハ商工、鑛政、特殊鑛物、産金、燃料、電氣第一、電

氣第二、水産ノ八課ヲ擁シマシテ半島地下資源ノ開發

重工業、輕工業及水産業ノ發展ヲ圖リ農林資源ノ開發

ト相註ンテ兵站基地朝鮮ノ使命達成ニ努メツツアルノ

デアリマスガ此等事務ヲ總括統合致シマスト其ノ負擔

一局長ノ能ク堪工得ル所ナク御座イマセン現在二局ニ

於キマシテモ尚且過重ノ憾ガアルノデアリマス由ツテ

之ヲ農林殖産ノ兩局ニ分任シテ各局長ノ責任ニ於テ所

管事務ヲ處理セシメルノカ適當デアリ且總督府各局ハ

各省ノ如ク各々獨立シタモノデアリナク總督ノ綜合行政

下ニ在ツテ總督總監ノ指揮ヲ承ケテ之ヲ處理シ各局相

互ノ連絡モ并緊密デアリマシテ全經濟行政ヲ統合スル

部局ヲ設置シタクトモ妨ナキモノト思料セラレルノテ



アリマス尚金融行政ハ國家財政行政トモ深イ關聯ヲ有  
キ且其ノ性質上産業助長ノ立脚矣ノミニ注目致シマス  
ノハ適當ナイト存ジマス産業經濟トノ關聯ニ付キ  
マシテハ別ニ總督府ノ綜合行政機構タル特質ヲ活用シ  
マシテ連繫ヲ緊密ナラシメルコト致シ理財課ハ之ヲ  
財務局ニ所屬セシメントスル次第デゴサイマス



七 交通行政ノ統一ノ見地ヨリ鐵道、通信、土木

ヲ合併シ一局トスルヲ可トセスヤ

鐵道局、通信局及土木課所管事務ハ何レモ主トシテ  
交通通信ニ関スル行政事務アリマシテ之ヲ統合ス  
ルコトモ一業トシテ考ヘ得ラレマスカ鐵道、通信、  
土木ハ何レモ相當ノ機構ヲ有シテ居マシテ之ヲ統合  
スルニ於キマシテハ尠大ナ局ト為リマシテ一局長ノ  
員担ヲ起ユルモノト謂ハネバヤリマセン其ノ下ニ夫  
通信部長、鐵道部長ノ如キ輔佐機關ヲ要シマシテ現  
狀ト實質ニ於テハ此ニシテ相違ナク及面ヨリ見ルト  
キハ猶分立スルモノト謂ヒ得ルノ事アリマス均シク  
交通通信行政ト謂ヒマシテモ其ノ事務内容ハ何レモ  
別個ノ分野ニ於テ行ハレ全然性質ヲ異ニスル簡易生

命保障ノ如キ事務ヲモ包含シテ居リマスノ事唯交通  
政策ノ統合、交通運輸機關ノ連絡等ニ於キマシテ相  
當ノ連繫、統合ヲ圖ルヲ以テ足ルモノト謂フベキニ  
總督府ニ於キマシテハ此ノ事綜合行政廳トシテ此ノ  
間ノ連絡調整ハ現在行ハレツツアリマスカ今後更ニ  
其ノ調整ヲ圖リマシテ交通行政ノ統一ノ趣旨ニ副ハ  
シトスル次第アリマス



八 本改正ニ伴フ人員及經費ノ増加如何

厚生局設置ニ伴フ増員ハ局長一奏任事務官一技師一屬五技手四計一  
 二、殖産行政充實ニ伴フ増員ハ勅任事務官一奏任事務官一屬一計三、  
 國土計畫ニ伴フ増員ハ調査官二屬三技手二計七、企畫部ノ細替増員  
 ハ部長一奏任事務官四理事官一技師一屬六技手二計一五、電氣瓦斯  
 ノ遞信局ヨリノ移管増員ハ奏任事務官一理事官一技師六屬一〇技手  
 三七計五五、増員總計九十二人デアリマシテ増加經費ハ五四六、〇  
 六五圓ニナリマスガ企畫部及電氣等ニ關スル細替ニ伴フ増員ヲ除キ  
 純粹ノ増員ノミヲ計算致シマスト局長一人増ノ反面部長一人減員シ  
 勅任事務官一奏任事務官三調査官二技師一屬九技手六計二二トナリ  
 マシテ其ノ所要經費ハ一二四、五六七圓デ御座イマス

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が並んでいる）



九 朝鮮總督府ノ局長ハ各省ノ局長ニ比シ官等俸給共上位ニ在ルガ其ノ理由如何又之ヲ引下ケル意思ナキヤ若シ現狀ノ儘トスルナラバ局ヲ擴大シ局内ニ部ヲ設クル制度如何

(4) 三千年ノ歴史ヲ有スル二千四百萬民衆ノ統治事務ハ單ナル机上ノ處理ノ事務トハ性質ヲ異ニシ困難ナル行政事務ナルノミナラズ優秀ナル人物ヲシテ腰ヲ落付ケテ専心朝鮮統治ニ當ラシムルノ要アルモノト思フノデアリマス以上兩點ヨリ稽エ朝鮮總督府ノ局長ノ地位ヲ相當上位ニ置カレタモノト思イマス

又總督政務總監ノ地位モ相當上位ニ置カレテアルモ同様ノ事由ヨリ依ルモノト存ゼラレ今日ト雖モ此ノ邊ノ事情ニハ變ル所無イモノト存ジマス  
10 (ロ) 尙局内部制ノ點ハ御尤モナ御意見ト存ゼラレ殊ニ朝鮮總督府ノ事務モ一段ト複雑多岐ニ相成ツテ參ル狀況デアリマスカラ當然近キ將來ニ

斯ル制度ニ向テ充實シテ行クゴトト存ゼラレマス  
今同ノ案ニ於テハ司政局、殖産局ノ如キ重要事務ヲ掌理シ事務量多キ局ニ局附事務官ヲ配置スルコトニ致シタノデアリマスガ將來御説ノ如キ制度ニ付テハ充分研究致ス所存テ御座イマス

一〇 厚生局、司政局其ノ他本府機構改正ニ伴ヒ地方廳機構改正ノ要ナキヤ

(一) 厚生局ノ置ト地方廳機構  
厚生局主管事務ハ社會、勞務、保健及衛生ノ事務デアリマシテ此等事務中地方廳ニ於テハ社會及勞務ニ關スル事務ハ道内務部社會課、保健及衛生ニ關スル事務ハ道警察部衛生課ニ於テ主管シテ居リ更ニ第一線ニ於テハ内務部所管事務ハ村尹、郡尹及島司、警察部所管事務ハ警察署長ヲシテ行ハシメツツアリマスカ總督府ハ綜合行政廳テ下リマヌノテ部局ノ新設ニ伴ヒ特ニ地方廳機構ノ改正ヲシナクトモ地方廳ニ對スル指揮監督ニ於テ缺クル所ハオク内務、警察兩部ニ對シ厚生局ノ方針ヲ充分徹底スルト考ヘラレマ

スノテ令儀ニ地方廳機構ヲ擴充シ新ニ部ヲ設置シ又ハ課ヲ設ケルトイフコトハ官廳事務再編成ノ方針ニモ及シマヌノテ地方廳機構ノ改正ハ之ヲ行ハナイコトト致シマシタ

(二) 電氣及瓦斯ノ事務移管ト地方機構

電氣及瓦斯ニ關スル事務ニ付テハ遞信局所管ノ際ニ於テモ地方遞信局其ノ他ノ遞信官署ニ於テハ之ヲ所管セズ主トシテ中央ニ於テ處理シ、地方ニ於テ又道ニ於テ處理シテ參ツタノテ下リマシテ寧口總督府ニ移管シタ今日地方廳ニ對スル關係ハ合理的トナツタ譯デアリマス

(三) 物價調整事務移管ト地方廳

物價調整ノ事務ハ地方廳ニ於テハ當該商品ノ配給事

務ヲ所管スル課ニ於テ合一掌理シテ居リ總督府ニ於テ  
 企畫部ニ移管シタノハ其ノ趣旨ハ主トシテ配給事務ト  
 ノ連繫ヲ保タシメルニ在ルデアリマシテ地方廳ニ  
 於テハ既ニ當該主務課ニ於テ配給及價格公定ヲ行ツテ  
 居リ機構ノ改正ノ必要ガナイヲ知譯デアリマス

## (四)

## 鑛業行政ト地方廳

鑛業行政ハ道ニ於テハ産業部ニ於テ補助事務ヲ掌ツテ  
 居リマスガ殆ド全部ノ事務ヲ總督府ニ於テ處理シツ  
 アリ今俄ニ鑛山監督局ノ如キ機構ヲ設ケル等機構ヲ擴  
 充スル必要ハナイト考ヘテ居リマス

## (五)

## 司政局設置ト地方廳

司政局主管事務ハ主トシテ道内務部ニ屬シテ居リ外事  
 部ノ事務ハ拓殖移民等カ他ノ部ヲ行ツテ居リマスガ之

ニ實施事務デアリマシテ特ニ内務部移管ノ要ナク唯國  
 民總力運動ハ知事官房ニ於テ處理シテ居リマスガ之ハ  
 此ノ際内務部ニ移管スルコトニ致シテ居リマス



一一 朝鮮ニ於ケル官廳事務再編成ニ依ル職員減員ノ狀況如何  
 官廳事務整理ノ趣旨ノ下ニ本府及所屬官署ヲ通ジマシテ昭和十六年度  
 豫算ヨリ奏任九判任六五八行選職員一・〇九一總計一・七五八人（總  
 員ニ對スル割合四分強）ノ節減ヲ致シマシタガ更ニ臨戰態勢ニ順應致  
 シマシテ目下更ニ高度ノ官廳事務整理ヲ爲ス爲メ説意具體案ヲ考究中テ  
 御座イマス



一二 不要不急事務整理ノ状況如何

本年度ニ於テ既ニ官廳事務整理ノ趣旨ノ下ニ本府及所屬官署ヲ通ジマシテ不要不急事務ト認メラレマス試験調査、補助、建設改良等ノ事務二十五項目ニ亘リマシテ既定經費及既定繼續費ヲ節約又ハ繰延ヘ經費ニ於キマシテ約四千萬圓ヲ節約シ、人員増加豫定ノモノ三百五十餘人ヲ御削減シマシタ



第二  
厚生局

M-0028

0028

一三 厚生局設置ノ理由如何

今同厚生局ヲ設置致スコトニ計畫致シマシテ理由ヲ簡約ニ申上下マズレバ要スルニ戰時下最モ緊急対策ヲ要スル勞務動員其ノ他勞務対策事務及衣食住等ノ生活対策事務並ニ其ノ他ノ人的資源ニ関スル應急的及恒久的対策事務ノ重要性ニ鑑ミマシテ此等ニ関スル事務處理ノ統一敏捷ヲ圖ル為ニ勞務局社會課、勞務課及警務局衛生課ノ兩局ニ所屬スル事務ヲ統合シテ所謂厚生事務ニ專念スル部局ヲ設置セントスルヲ示アリマス

古ノ点ヲ尚敷衍シテ申上下マズレバ第一莫ノ勞務対策事務ニ付テハ朝鮮ニ於ケル勞務動員ハ時局ノ緊迫ニ伴ヒ一層強化擴大スルノ已ムヲ得サル情勢ニ在リマシテ鮮内要員ノ外本年度内地樺太南洋ニ供出スル者十萬人

ニ達スル狀況ニアリマス此等朝鮮人労働者ノ内地渡航ニ関聯スル措置ノ重要ナルハ申ス迄アリマセシ又勞務関係ノ國家總動員法ハ内鮮同一歩調ヲ以テ次々ニ發動セラレテ居リマスハ朝鮮ニ於テハ勞務動員ノ前提ト為ルベキ勞務施設ニ於テ殆ンド見ルニキモノ無キ現状ヲ差當リ工場令、労働者災害扶助令等一聯ノ労働法規現ヲ朝鮮ノ實情ニ即應セシメテ急速ニ立法スベク準備ヲ持メテ居ル次第ニアリマス

又朝鮮ノ人的資源ニ付テハ施設ヲ見マスニ其ノ保健乃至體力施設等殆ンド見ルベキモノ無ク差當リ結核、花柳病、精神病、急性傳染病豫防対策乃至國民體力管理制度等ニ付キマシテハ折角企畫中ニ屬シテ居ル次第ニ御座イマス



次ニ第二矣トシテハ今期長期戦下及戦後ノ朝鮮ニ於ケル施政ノ要諦トシテハ生活、労働其ノ他厚生部面ノ施策ニ重兵ヲ置クノ緊要ナルモノアリト存スル次第アリマシテ即チ衣食住ノ生活問題ハ現下緊急ニ之ヲ対策ノ實施ヲ迫ラレソツアル問題ニアリマス又工場等労働立法ノ制定セラレル情勢ニ伴ヒ當然社會保健制度實施ノ要アリト存セラレ其ノ一部實施ニ付研究中示アリマス其ノ他此等方面未開拓ノ朝鮮ノ現状ニ鑑ミ實情ニ即シ各種福利ノ保護投 済施設ニ付適宜施策致シ度イト存スルノ示アリマス

之ヲ要スルニ致上事務ノ分野トスル所ハ何レモ人的資源ノ質及量ニ関スル対策事務ニシテ新附ノ民ヲ統治ノ対象トスル外地統治ニ於テハ當然最モ困難ナル問題ニ

當面スベキハ理ノ當然トスル所チ即チ人口、民族、血液等深刻微妙ノ根本的問題ニモ觸ル又在鮮内地人ノ定着問題等各種ノ重要且困難ナル問題ニ當面スルノ示アリマス又朝鮮ニ於ケル厚生施設ハ前述ノ如ク何レモ今後ノ施策ニ俟ツモノニシテ其ノ實施ノ緩急及施設ノ型態ニ付テハ獨創的考察ヲ要スル所チアリマス然ルニ本事務ノ主管ハ現在内務警務兩局ニ分屬シ事務處理ノ政連統一ヲ期シ難キ實情ニ在ルヲ以テ此等兩局ノ事務ヲ統合シテ新ニ厚生局ヲ設置ノ專任ノ局長ヲシテ致上人的資源ニ関スル重要複雑ナル新分野ノ事業ヲ處理スルニ遺憾無カラシメントスルモノアリマス尚厚生局設置ニ伴ヒ部局ノ廢合ヲ圖リ總督府全体トシテハ部局ノ増設ヲ致サナカツタ結果ト相成ルモノ示御座イマス



一四 衛生課ト保健課ニ分離スル理由如何

朝鮮ニ於ケル衛生施設ハ内地ニ比シ甚シク不完全デアリマシテ醫療機關ノ普及狀況ノ如キモ内地ノ五分ノ一ニ當リ今尙傳染病モ累年増加ノ狀況ニ在リマシテ内地ノ三倍乃至四倍ニ達スルノ狀況デアリ又結核患者ノ如キモ内地ノ一倍半モアルノ狀況デアリマシテ（但シ朝鮮人ニ付テハ正確ナル統計無キヲ以テ在鮮内地人ト内地ノ夫レヲ比較シタノデアリマス）甚シキ脅威ト謂ハネバナリマセン今回人的資源ニ關スル機構ヲ擴充スルニ當リマシテ此等防疫、豫防及體力向上、環境衛生等ニ關スル職員ヲ若干増置致シマシテ右事務ニ専念スル保健課ヲ新設致ス次第デアリマス之ヲ厚生省ノ機構ト比較スレバ大體衛生局主管事務ヲ衛生課ニ於テ主管シ、人工局及豫防局主管事務ノ一部ニ該當スル事務ヲ保

健課ニ於テ管掌セシムル豫定テ御座イマス

一五 今後ニ於ケル厚生行政ノ重點トスル點如何  
 朝鮮ニ於テハ厚生行政方面ハ最モ未開發ノ分野ニ屬シ有ユル施設ヲ考  
 慮セラルベク總督府ニ於キマシテモ戰時下及戰後ノ對策トシテ最モ此  
 ノ方面ノ政策ニ重點ヲ措ク方針デアリマスガ先ヅ着手セントスル事項  
 ノ内主要ナルモノハ大體左ノ通りデ御座イマス

(1) 先ヅ戰時下ニ於ケル勞務對策デアリマスガ之ニ付テハ各種總動員  
 法ノ施行事務ガアリ就中重要ナルハ勞務動員事務デ本年度ニ於キマ  
 シテモ内地、樺太、南洋ニ十萬人ノ勞務者ヲ供出スルコトニ相成テ  
 居リマス之ニ伴ヒマシテ派生的ニ種々考慮スベキ對策モ御座イマシ  
 テ之ガ圓滑ナル進捗ヲ期シテ居ル次第デ御座イマス

(2) 次ニ現下ノ要請及朝鮮ノ實情ニ即應スル工場令、勞働者災害扶助  
 令等一聯ノ勞働法規ノ制定デアリマシテ本年度豫算ニ於テモ之ガ所  
 要人員ノ經費ヲ計上致シテ居リマス

(3) 次ガ保健衛生施設ノ擴充デアリマシテ殊ニ結核、花柳病及精神病對  
 策、急性傳染病豫防乃至國民體力管理制度ノ實施タル擴充ヲ圖ル所  
 存デ御座イマス

(4) 次ハ戰時下ノ衣食住等生活對策就中住宅對策デアリマス  
 (5) 前記ノ如ク工場令等勞働立法ノ考慮セラルル情勢ニ伴ヒ社會保健  
 制度モ實施スベキモノトシテ先ヅ健康保險及職員健康保險制度ノ實  
 施ニ付研究中デアリマス

(6) 尙各種福利乃至保護施設ニ付テモ之ヲ体系化シ漸次擴充致シ度イ  
 ト存ジテ居ル次第デ御座イマス

一六 内地ニ於ケル各種厚生施設ハ其ノ儘朝鮮ニモ  
實施スルヤ

新附ノ同胞タル朝鮮民衆ニ對シマシテモ一親同仁ノ  
聖旨ヲ体シ其ノ福利ヲ増進スベキ各般ノ施設ヲ講ジ  
タイト考ヘテ居リマス從ツテ内地ニ於ケル社會、勞  
務、保健、衛生等各般ノ厚生施設ニツキマシテハ出  
來得ル限り朝鮮ニ於テモ之ニ倣ヒタイト考ヘルノ不  
アリマスか財政上ホシエ許サレナイ場合モアリ、  
民度モ高カラサル現在ホシエ急ヲ要シナイモノモ  
アリ、又朝鮮ノ特殊事情ニ依リホシエ同一トハ考  
ラヌ場合モアリ内地ニ於ケル此等施設ヲ今直ニ其ノ  
儘之ヲ朝鮮ニ施行スルカ如キコトハ考ヘテ居リマセ  
ン要ハ實情ニ即シ漸次適切ナル方策ヲ實施致シ度イ

ト存ジテ居リマス



一七 朝鮮ニ於ケル保健衛生施設ノ現状並ニ衛生状態如何

朝鮮ニ於ケル保健衛生施設ハ漸次改善セラレ併合當時ニ比シ面目ヲ一新シタコトハ申ス迄モアリマセン殊ニ例ヘバ癩病ニ對シテハ六千人ヲ收容スル官立療養所ヲ設置スル等徹底セル施設ヲ講ジ之ガ絶滅ノ對策ガ確立シテ居ルノデアリマス又麻藥中毒者ニ付テモ相當其ノ害毒蔓延致シテ居ツタノデアリマスガ今日ハ殆ンド之ヲ絶滅スルヲ得タルガ如キ又肺シストマノ如き地方病ノ絶滅等誇ルヘキ實績モアリマスガ尙今日ノ産業ノ振興、都市ノ膨脹等ニ比例セズ左ノ如ク施設改善ヲ要スヘキ状態ニアルノデアリマス即チ

(1) 醫療機關ノ普及狀況ハ對人口比率ニ於テ内地ノ五分ノ一ニ漢方醫タル醫生ヲ加フルモ仍内地ノ三分ノ一ニ過ギマセン

(2) 朝鮮人ハ其ノ死亡率ニ於テ全体的ニモ亦幼兒ニ付テモ内地ニ比シ高率ノ狀況ニ在マス

(3) 急性傳染病ノ如キモ寧ロ増加ノ狀況ニアリマシテ朝鮮在住者ノ甚シキ脅威デアリマスガ正確ナル統計ヲ得難キ朝鮮人ヲ除キ在鮮内地人ト内地ノ夫レトヲ比較シマスルニ三倍乃至四倍ノ多キニ達シテ居リマス又慢性傳染病タル結核ノ如キモ同様ノ比較ニ於テ内地ニ比シ五割モ多キ狀況ニ相成ツテ居リマス

一八 今後ニ於ケル保健衛生行政ノ重點如何

朝鮮ニ於ケル保健衛生ノ現状ハ別項ノ如クデアリマシテ(一七参照)尙施設改善ヲ要スベキ餘地頗ル多キ狀勢デ御座イマス殊ニ現下軍需生産力擴充等ノ立場カラ人的資源ノ充足ヲ緊要トスル狀勢ニ鑑ミ此ノ方面ニ一段ト積極的方策ヲ講ズルノ要ヲ認ムルノデアリマス尙ホ新シク厚生施設ヲ充實スルコトハ一面戰時下朝鮮ノ民心ヲ收攬スルノ施設トシテモ又内地人ノ定着策トシテモ重要ナル意義ガアルコトト存ズルノデアリマス玆上ノ趣旨ニ鑑ミ本府ニ於テモ今回厚生局ヲ設置シ又體力ノ向上、豫防、防疫等ニ關スル機構ヲ若干充實シテ衛生課ノ外ニ保健課ヲ設置スルコトニ致シタノデアリマス從テ此ノ趣旨ニ基キ今後措ルベキ方策トシテハ差當リ急性傳染病ノ防疫施設ノ強化、結核、花柳病對策等ノ擴充、體力管理ノ實施、醫藥品配給ノ圓滑等デアルト存ズルノデアリマス

一九 朝鮮ニ於ケル内鮮人別人口増加ノ趨勢如何  
 明治四十三年併合當時朝鮮ノ全人口千三百万人内  
 地人十七万人ナリシモノ昭和十五年國勢調査ニ於テ  
 ハ總人口二千四百万人ニ達シ内地人ハ七十万人ニ  
 アリマス而シテ内地人毎年増加ハ二万人前後ニアリ  
 マシテ更ニ之カ定着ノ方策ニ付考究中ニアリマス又  
 朝鮮人ノ増加狀況ハ統計ニ多少ノ不正確ハ免レマセ  
 ンカ最近五々年間ノ平均ヲ見マサルニ死亡ハ十人ニ  
 付十九人ノ多數ナルモ出生數亦三十二人ノ多數ヲ  
 示シ差引キ毎年十三人強實數ニ於テ約三十万人ノ増  
 加ヲ示シテ居リマス即チ出生モ死亡モ多數ナルハ良  
 ク朝鮮人ノ人口動態ノ趨勢ヲ示スモト存セラレマ  
 ス

二〇 朝鮮ニ於テハ内地人増加策ヲ講ジツツアリヤ  
 十五年度國勢調査ノ結果ニ徴スルトキハ在鮮内地人ハ七十萬餘デア  
 リマシテ併合三十年ノ今日尙増勢過々タルノミナラズ事變後ハ特ニ  
 統制經濟ノ強化ニ伴ヒ内地人中小商工業者並營農者ハ寧ろ遞減セン  
 トスル傾向スラ見エルノデアリマス中小商工業者ノ轉失業ノ問題ハ  
 獨リ朝鮮ノミナラズ廣ク帝國全体ノ國策トシテ検討セラルベキ問題  
 デハアリマスガ大陸ヘノ據點タル半島ニ於テ内地人ノ増加定着ヲ策  
 スルコトハ前進基地ヲ固メル意味ニ於テ其ノ緊要性ヲ一層痛感スル  
 次第デアリマス之ガ爲ニハ朝鮮ノ農工併進政策ニ即應シテ内外地ヲ  
 通シテ重輕工業ノ合理的配分、原料資材ノ合理的配給ヲ前提トシテ  
 速カニ資本ト技術ニ伴ヒテ入植可能ナル内地人ノ増加定着ヲ促進ス  
 ル一方朝鮮人ヲ工場鑛山ニ吸收シ又ハ開拓民及時局勞務者トシテ供  
 出シ以テ朝鮮ノ計畫的人口疏散ヲ圖リ内地人入植ノ餘勢ヲ作ルト共  
 ニ更ニ現任内地人ノ退去抑止ノ爲メ轉退職ノ機會ヲ捉ヘテ就職ヲ幹  
 旋スル外學校職員及警察官等ノ公務員ヲ初メ會社、工場、鑛山等ニ  
 對シ大量ニ内地人ノ職業斡旋ニ努メ駐在部隊ノ除隊兵ニ至ル迄漏ラ  
 サズ臨機ノ處置ヲ講ジ其ノ他之ガ爲教育、衛生、住宅施設等ニ付テ  
 モ夫々適當ナル方策ヲ擴充シツツアリマス  
 要ハ内地人ノ半島内増加定着ニ依リ直ニ朝鮮人ノ同化民心ノ領導等  
 ヲ推進シ以テ産業上、國防上朝鮮ノ負荷スル大使命完遂ニ遺漏ナキ  
 ヲ期シテ居ル次第デアリマス

二一 朝鮮在任内地人及其ノ子弟ノ健康其ノ他ノ状況如何  
 朝鮮ハ氣候風土内地ト些シタル相違アル譯デモ無ク又併合以來三十餘  
 年ヲ閱シ諸施設漸次整備シツツアリテ特段ニ取立テテ申ス程ノコトモ  
 無イヤニモ一應觀察サレマスガ仔細ニ之ヲ觀察致シマスト在任内地人  
 ノ急性傳染病ニ依ル死亡率ノ如キハ内地ノ三倍乃至四倍ヲ示シ結核ニ  
 依ル死亡率ノ如キモ五割多ク在任内地人トシテハ甚シク脅威デアリマ  
 ス又其ノ子弟ノ健康狀況モ内地ニ比シ總體的ニ劣ル狀況デアリマシテ  
 在任内地人國民學校兒童ノ死亡率ヲ内地ト比較致シマスト内地ノ倍シ  
 ド倍ニ達スルノ狀況デアリマス新ル狀況ト併合三十年餘ニシテ尙在任  
 内地人七十歳ニ過モザル實情トヲ考エ合ストキ今後大變ニ發展スベキ  
 日本人トシテ太ニ考フベキ問題ガ薄ンデ居ルカト存スル次第デアリマ  
 ス厚生局設置後ニ於テハ充分此等ノ問題モ檢討對處致ス所存デ御座イ  
 マス

二 朝鮮ニ於ケル人口政策如何  
 朝鮮ニ於ケル人口ハ併合以來年々増加シ來リ併合當初  
 僅々千三百萬人デアリマシタノニ對シ昭和十五年ノ國  
 勢調査ニ於テハ二千四百萬人ニ達シ最近ハ年々約三十  
 萬人ノ増加ヲ見テ居ルノデアリマスカ斯ノ如キハ帝國  
 統治ノ善政ヲ物語ルモノト存ジマス又出生數ハ人口千  
 ニ對シ三十二人デアリマシテ内地ニ於テ事變後著シク  
 出生率カ低下セルノ現狀トハ異リマカ上昇ノ過程ニ在  
 ルモノト存セラレマス即チ朝鮮ニ於テハ未カ内地ノ如  
 ク人口問題ハ逼迫致シテハ居ラズ差當リ傳染病豫病、  
 乳幼児ノ保護等朝鮮ノ實情ニ即シテ施設ニ付先ツ考慮  
 致シタイト存ジマス

二三 朝鮮ニ於テハ國民優生法ヲ施行スルヤ  
 國民優生法ハ民衆ノ理解ニ俟タネバナラヌ所カ多ク  
 相當ノ文化ヲ前提トスルモノナリマスカラ、民度低  
 キ朝鮮ニ於キマシテハ今直ニハ之ヲ實施シ難ク十分  
 研究ノ上喜處シタイト存ジマス



二四 朝鮮ニ於テハ國民體力法（所謂體力管理）ヲ實施スルヤ  
朝鮮ハ死亡率モ高ク又結核、花柳病モ相當蔓延シ此ノ情勢ハ在韓内  
地人對策トシテモ放置シ難キ處ナルヲ以テ本制度ヲ差當リ都會地ニ實  
施スル目途ノ下ニ之ガ準備ヲ涉メツツアリマシテ準備ニ要スル經費モ  
若干豫算ニ計上致シテ居リマス



二五 朝鮮ニ於ケル結婚及出産ノ奨励政策如何  
 朝鮮ニ於ケル結婚年齢ハ内地ニ比シ遙ニ低ク寧ロ農村  
 テハ今猶早婚ノ弊ガ残ツテ其ル程デアリマシテ特ニ結  
 婚奨励ニ付施設ノ必要ハナイト考ヘテ居リマス又出産  
 ニ付テモ毎年六七十万ノ多キニ達シ人口千人ニ付約三  
 十二人ニ及ビ内地ガ漸減ノ傾向アルニ比シマズレバ此  
 ノ際出産ノ増加ニ付特ニ奨励ノ政策ヲ採ルノ必要モナ  
 イト考ヘテ居リマス



ニ上ツテ居リマス

ニ六 内鮮人間ノ結婚ニ對スル政策如何  
 内鮮人間ノ結婚ハ内鮮一體ノ理想ニ照シ好マシキモノ  
 デアリマスガ事人ノ自然ノ性情ニ依ルモノデアリ人爲  
 的ニ行ヒ難ク且内鮮人間ノ民度ノ差異、言語、生活様  
 式、社會ノ風習、家族制度、血液ノ純潔ニ對スル信仰  
 等種々ノ問題アリ特ニ之ニ對スル政策ヲ採ラズ自然ニ  
 放任シテアリマシタノデ從來其ノ數ニ餘リ多クナカツ  
 タノデアリマスガ最近文化ノ向上、内地人ノ増加等ニ  
 伴ヒ其ノ接觸多ク生活モ漸次接近シテ參リ殊ニ創氏ノ  
 制度ガ布カレテ内地人女子ガ朝鮮人男子ト結婚スルノ  
 容易トナリ内鮮人間ノ結婚ニ増加ノ傾向ニ在リ昭和  
 十三年ニハ總組數九〇七（内朝鮮内地ノ結婚八三三）  
 昭和十四年ニハ一、〇〇五（内朝鮮内地ノ結婚九〇六）



ニ七 朝鮮ニ於ケル社會福利施設ノ狀況如何

現在朝鮮ニ於テ經營セラレツツアリマス社會事業ハ其ノ救済的施設ト致シマシテハ

一 罹災救助 併合以來屢次下賜セラレマシタ恩賜金

ヲ主トシマシテ基金ヲ設定シ罹災者ノ救助ヲ行ツテ

居リマスガ朝鮮ニ於テハ殆ド毎年恒例的ニ水害、旱

害、冷害等ノ諸災害ニ遭遇スルヲ例トシ右ノ外國庫

道貴義捐金ノ支出ヲ餘儀ナクシ之ガ救済施設ニ忙殺

セラルルヲ例ト致シテ居リマス

二 賑恤救護 大正天皇御大禮、大正天皇御大喪及今

上陛下御大禮ニ際シ下賜セラレマシタ恩賜金ヲ以テ

恩賜賑恤資金ヲ設定致シマシテ老幼、不具、痲疾又

ハ重病ノ爲生業ヲ營ムコトガ出来ズ且他ニ頼ルベキ

親戚故舊ノ無イ者ニ對シテ大正四年以來救恤致シテ

居リマス

行旅病人ノ救護及同死亡人ノ取扱ハ事件發生地ノ村

邑面長ニ於テ行ヒ其ノ費用ハ本人又ハ扶養義務者ヲ

シテ辨償セシメ辨償シ得ナイ場合ハ道貴及國費ヨリ

支出シテ居リマス尚臨時恩賜金ヲ基金トシテ大

正六年行旅病人救護資金ヲ設定シ主ナル都會地ニ於

ケル行旅病人救護所ニ對シ補助シテ居リマス

次ニ其ノ福利施設トシマシテハ

一 公益市場 全鮮主要都市六十九箇所ニ設置致

シテ居リマス

二 共同宿泊所 京城、仁川、木浦、釜山、平壤等

ニ社營又ハ民營ノ共同宿泊所ヲ設學致シテ居リマス



三 簡易食堂、公益理髮場、公益浴場、公益洗濯場  
 各都市ニ漸次普及セラレツツアリマス  
 四 公益質屋 全鮮主要都市ニ十一ヶ所ニ之ヲ設置  
 シ國費ヨリ補助金ヲ交付シテ之カ助成指導ニ努メ  
 テ牛マス

五 小額生業資金 小農者ニ對シテ低利且容易ニ小  
 口ノ資金ヲ融通シ其ノ生業ヲ奨メ之ヲ保護指導シ  
 テ牛ルノデアリマス

六 住宅 生産力擴充事業ノ擴充ニ伴ヒ都會地ニ於  
 ケル住宅ハ著シク拂底ヲ來シマシタリテ時局産業  
 企業者ニハ其ノ勞務者住宅ノ建設ヲ極力勸奨スル  
 ト共ニ社邑ニ對シテハ公營住宅ノ建設供給ヲ從惠  
 スル一方一般住宅建築ニ付テモ資材ヲ確保シ積極

的ニ奨勵致シテ居リマス尚本年度ヨリハ朝鮮ニ於  
 テ又住宅營團ヲ開設シニ万戸ノ小住宅建設進捗中  
 テアリマス

大要以上ノ通デアリマシテ尚其ノ外各種社會事業運營  
 上ノ圓滑ヲ圖ル機關トシテ京城其ノ他主要都市ニ設ケ  
 ラレマシタ方面委員制度等モ近時次第ニ擴充ノ氣運ニ  
 向ツテ來テ牛ルノデアリマス又鮮内ノ私設社會事業團  
 體約二百ニ對シマシテモ國庫ヨリ補助シ其ノ事業經營  
 ニ關シマシテ指導助成ヲ加ヘテ牛ル次第デアリマス



二八 事變下朝鮮ニ於ケル衣食住等ノ生活問題ニ對スル  
對策如何

併合以來民度低キ半島民衆ノ生活向上ニツキマシテハ  
諸般ノ政策ヲ採リ未ツタノデアリマスガ事變以來生活  
物資ノ不足ニ伴ヒ半島民衆ノ生活モ窮乏トナルヲ免レ  
マセヌノデ總督府ニ於キマシテハ半島民衆ノ必需物資  
ノ配給ニ付格段ノ考慮ヲ拂ヒ他面國民總力運動等ヲ通  
ジ事變下ニ於ケル半島民衆ノ遂行スベキ責務ヲ自覺セ  
シメ以テ帝國ノ聖戰遂行ニ對スル信賴ト協力トヲ昂メ  
テ参ツタノデアリマス農村ニ於キマシテハ棉花、繭、  
麻等纖維原料ニ付國策ニ順應シテ消費ヲ抑制セシメツ  
ツアリマスガ一定限度ノ自家消費ヲ認メ、主要食糧タ  
ル米、麥ニ付テハ出荷ヲ督勵スルト同時ニ麥、粟等ノ

配給ヲ考慮シ又都會地ニ於キマシテモ食糧其ノ他ノ物  
資ノ配給統制ヲ行ヒ、地代家賃統制令及宅地建物等價  
格統制令ノ施行、朝鮮住宅營團ノ設置等ニ依リ住居難  
ノ緩和、地代家賃等ノ騰貴ノ抑制ヲ圖リ以テ半島民衆  
ノ生活ノ安定ヲ期シテ居リ民衆又帝國ノ聖戰遂行ニ對  
シ進ニテ國策ニ協力シテ居ル現状デアリマス



二九 朝鮮ニ於ケル銃後對策及軍事援護事業如何  
 總督府ニ於キマシテハ支那事變勃發ト共ニ直ニ通牒ヲ  
 發シマシテ入營應召軍人ノ家族ニ付其ノ生活狀況ヲ調  
 査致シマシテ扶助、慰藉、激勵ニ遺憾ナキヲ期シ中央  
 地方相呼應致シマシテ軍事扶助法ノ活用ニ全幅ノ努力  
 ヲ傾注致シマシタ以外ニ事變ノ長期繼續ニ善處スル爲  
 全鮮ヲ一丸トスル衆力ノ結合ニ依リマシテ統制秩序ヲ  
 ル銃後ノ活動ヲ持續スル必要ヲ認メ昭和十二年七月中  
 央ニ朝鮮軍事後援聯盟、道府郡島ニ均シク軍事後援聯  
 盟ヲ結成シ常ニ關係當局ト緊密ナル連絡ヲ保チマシテ  
 皇軍ノ士氣ヲ鼓舞激勵シ且將兵ヲシテ後顧ノ憂無カラ  
 シムルヲ期シ疆内臣民ニ對シ時局認識及軍事援護觀念  
 ノ強化ヲ圖リ傷痍軍人茲ニ軍人ノ家族、遺族ニ對スル

扶助、職業上ノ斡旋、慰問等内鮮人一體トナリマシテ  
 協力愛國ノ赤誠ヲ捧ゲテ銃後奉公ノ實ヲ擧ゲタノテ御  
 座イマス又昭和十三年十二月恩賜財團軍人援護會朝鮮  
 本部及大日本傷痍軍人會朝鮮支部ヲ設置致シマシテ國  
 ノ施設ト相俟テ軍事援護ノ徹底ニ努メテ居リマス因ニ  
 鮮内ニ於テ今次事變ニ依リ應召シタル者ハ相當數ニ上  
 ツテ居リマス尚銃後對策ト致シマシテ國防獻金(朝鮮軍  
 愛國部ノ受附ケマシタ事變以來ノ累計七百七十万円、  
 鎮海要港部ノ受附ケタルモノハ百四十万円アリマシ  
 テ之等ノ中ヨリ朝鮮軍ニ於キマシテハ軍用器四十臺、  
 海軍ニ於キマシテハ三十臺ヲ首メ各種ノ軍器ヲ作成致  
 シマシテ其ノ都度感激溢ルル獻納式ヲ舉行シテ居リマ  
 ス)公債消化(事變以來總額二六〇〇萬圓、朝鮮割當



居額ノ十一割ノ等愛國ノ赤誠ヲ舉揚ニ遺憾ナキヲ期シテ  
ル次第ヲ御座イマス



三〇 朝鮮ニ於ケル勞務ノ需給狀況及勞務動員計畫如何  
 勞務需給狀況ニ付テ概説シマスト滿洲事變ヲ契機トシマ  
 シテ其ノ有スル豊富ナル電力資源ト地下資源ノ好立  
 地條件ノ上ニ一躍進途上ニアリマシタ朝鮮ノ近代の  
 産業ハ支那事變勃發以來大陸ノ兵站基地の特殊使命  
 ヲ帯フルニ至リマシテ軍需及生産力補充産業並ニ之  
 ニ附帶スル主要産業部門ハ急激ナル興隆ヲ来タシ之  
 ニ伴フ勞務ノ需要ハ逐年増嵩シテ居リ之ヲ勞務者數  
 増加ノ趨勢ニ依ツテ觀マズルト昭和六年未現在ノ職工  
 數ハ八万人ニ過キマセンタカ昭和十二年未現在ニ  
 於テハ十六万人昭和十四年末現在數ハ二十一万人一以  
 上孰レモ五人以上ノ工場ニ從事スル職工數トナリ滿洲  
 事變當時ノ三倍程度ノ増加ヲ示シ又鞍山勞務者數ハ昭

和六年六月末現在數四万人ニ足りマセンシカ昭和十  
 二年ニ於テハ十六万人昭和十五年ハ二十五万人ト飛躍  
 シ昭和六年ノ六倍以上ニ激増シ居ル狀況ニアリマス而  
 シテ朝鮮ニ於ケル勞務動員計畫産業ニ於ケル勞務者總  
 數ハ昭和十五年九月末現在百二十七万人示アリマシテ其  
 ノ内男子百十五万人女子十二万人示アリマス産業別ニ  
 之ヲ見マズルニ軍需産業一万人生産力補充産業三十五  
 万人輸出産業十二万人運輸通信業三十五万人土木建築  
 業二十八万人生活必需品産業及生括附帶産業十六万  
 人示アリマス而シテ此等産業部門ニ於ケル毎年新現  
 需要數ハ約三十万人程度示アリマシテ此ノ所而需要數ハ工  
 業業カ概テ人口稀薄ナル西北鮮地方ニ發達セル關係上  
 主トシテ比較的人口稠密ナル南鮮地方ノ農村ヨリ之カ



要員ノ充足ヲ見ツツアル現状ニアリマスガ之等勞務者  
 供出ノ圓滑ヲ圖ルタメ曩ニ本府ニハ朝鮮總督府勞働者  
 斡旋要綱ヲ定メ昭和九年ヨリ實施中ニアリマシテ其ノ實  
 績ヲ見マサルニ本施設開設當時ハ斡旋勞務者數六千  
 人程度ニ過キカッタニアリマスガ昭和十二年一万三千  
 人昭和十六年ハ實ニ七万八千人ノ累進的激増ヲ示シテ  
 居ル實狀ニアリマス尚本府ニハ勞務者募集ノ統制  
 ヲ期シテ昭和十五年一月朝鮮職業紹介令ヲ制定實  
 施スルト共ニ京城其ノ他主要ナル都市ニ國營職業紹介  
 所ヲ設置シ其ノ數九ヶ所ニ及ンドトマスガ其ノ工鉱業  
 及土木建築業方面ニ対スル昭和十五年中ノ紹介實績  
 ハ約八千人ニアリマシテ其ノ他本府及道ニ於テ職業  
 紹介令ニ依リ募集ノ許可ヲ與ヘタル員數ハ昭和十五

年中約四万人ニ達シマシタ其ノ他ノ所要勞務者ハ門  
 前募集文ハ自然流入ニ依リ充足ヲ見ツツアリマスガ斯  
 ル實情ニ徴シマシテモ朝鮮ニ於ケル勞務資源ノ豊富  
 ナルコトヲ現知シ得ラレルニアリマス隨ツテ今次事變  
 勃發以來内地方面ニ於ケル勞働力逼迫ノ緩和ヲ目的ト  
 シテ勞務動員計畫ニ基キ昭和十四年以來内地樺太及南  
 洋方面ニ多數ノ半島人勞務者ヲ供出シツツアリマスガ  
 其ノ數本年七月未現在ニ於テ十一万人ヲ突破セル狀況  
 ナアリマス而シテ右ニ述ベマシタ如ク鮮内主要産業部  
 門ニ於ケル勞務者亦而西支ノ激増ト内地、樺太及南洋  
 群島ニ對スル多量ノ勞務者供出トハ偶々昭和十五年  
 ヲリ實施セラレマシタ鮮米増産計畫ニ伴フ農業勞力  
 確保ノ問題ト相俟ツテ近時漸ク勞務調整ノ困難ヲ來

シツツアル所アリマスハ朝鮮ニ於ケル勞務資源ハ未  
 カ猶相當開拓ノ余地アリト思料セラレマスノ今後戰時  
 勞務対策ノ万全ヲ期スル為ニハ勞務行政機構ノ充  
 ハ素ヨリ法制上勞務行政ノ整備強化ヲ圖ルノ要緊切ナ  
 ルモノアリト思料セララルル所アリマス

而シテ斯ル勞務態勢ニ對處スル勞務動員計畫如何ト謂  
 フニ朝鮮ノ勞務動員計畫ハ昭和十五年度ヨリ設定セラレタ  
 ノ所アリマスハ昭和十五年度ニ於ケル一般勞務者新規  
 需要數ハ四十二万五千人トアリマシテ其ノ内譯ハ軍需而  
 生括産業之ニ附帶スル産業等ニ於ケル需要數十四  
 万八千人之ハ減耗補充充要員數十五万人内地及樺太移  
 住教九万七千人滿洲開拓民三万人トアリマス之ニ對スル  
 給源ハ新規學校卒業業者五万七千人農村ヨリノ供出數ニ

十五万人都市ヨリノ供出可能數及其他物資動員關係  
 等離職者等ヨリ十一万八千人トナツテ居リマス

昭和十六年度ニ於ケル一般勞務者新規需要數ハ四  
 十二万人トアリマシテ其ノ内譯ハ軍需、生括産業之ニ  
 附帶スル産業及其ノ他ノ重要産業ニ於ケル需要數十六  
 万七千人同上減耗補充充要員數十二万三千人内地樺太南  
 洋ヘノ移出數十万人滿洲開拓民三万人トアリマス之ニ對  
 スル給源トシテ新規學校卒業業者八万一千人農村ヨリノ  
 供出可能數五万四千九百人内地ヨリノ移住數八千人計四十  
 二万人トアリマシテ本計畫ノ實施ニ當リマシテハ昭和十  
 六年八月二十九日閣議決定ニ係ル勞務緊急対策ニ基キ重  
 要産業ニ於ケル勞務要員ノ充足ヲ圖ルコトヲ目的トシマ  
 シテ具體的措置ヲ講ジツツアル次第トナシマス

## 三 朝鮮ニ於ケル勞務對策如何

朝鮮ニ於ケル勞務對策ノ設定ニ當リマシテ其ノ目標トスル所ハ左ノ二項デアリマス

(一) 朝鮮ノ産業ガ豐富ナル地下資源及電力資源ニ併セテ豐饒ナル勞務資源ヲ擁スルコトハ極メテ重視セラルベキ所デアリマシテ之レ半島産業ヲシテ我國産業政策上重要ナル地位ヲ占ムルニ至ラシメタル所以ト思料セラルルノデアリマスガ朝鮮ニ於ケル勞務對策ハ此ノ飛躍的進展ヲ見ツツアル朝鮮内各種重要産業ニ於ケル所要勞務者ヲ疆内ニ於テ遺憾ナク確保シ其ノ立地條件ノ完備ヲ期スルコトガ其ノ一デアリマス

(二) 朝鮮人ニ兵役ノ義務ナキ關係上朝鮮ハ内地ニ比シ人的資源ニ彈力性ヲ有スルノハ言フ迄モ無イ所デアリマス夫レ故近年多數ノ半島人勞務者ヲ内地、樺太及南洋群島ニ供出シテ居リマスガ右ハ内鮮一體及朝鮮人ノ皇國臣民化ニ付テモ貢獻スル所尠カラザルモノガアルト思料セラルルノデアリマシテ本措置ニ依リ戰時勞務對策トシテノ國策ニ寄與セシメル必要ガアリマス但シ其ノ實施ニ當リマシテハ鮮内諸産業ニ於ケル勞務要員ノ充足ニ遺憾ナガラシムル要アルハ言フ迄モナイコトデアリマス此ノ二面的動員ノ調和ヲ圖リ供出ノ圓滑ヲ期スル必要アルモノト存ズル次第デ御座イマス

右ノ二目標ニ基キマシテ實施スベキ事項ハ概ネ左ノ通デアリマス

(一) 一般國民ニ勤勞尊重ノ念ヲ啓培シ勤勞報國精神ノ昂揚ニ遺憾ナカラシムルコト

朝鮮ニ於ケル勤勞督視ノ陋習ヲ打破シ國體觀念ニ基ク勤勞報國ノ志  
念ヲ昂揚セシメルコトハ朝鮮ニ於ケル勞務對策ノ基本的前提ヲアリ  
マシテ此ノ運動ノ促進ハ一般の勞働生産性ヲ向上セシムルノミナラ  
ズ内地等ニ於ケル協和事業ノ進展ニ資スル所勢クナイノニ鑑ミマシ  
テ現在國民總力運動ノ一環トシテ國民督勞運動ヲ展開シ之ガ目的ヲ  
達成ニ邁進シツツアルノデアリマスガ今後一層此ノ成果ヲ擧ぐる方  
策ヲ講ズル必要ガアルモノト存ジテ居リマス

(二) 軍需其ノ他重要産業部門ニ於ケル所要勞力ノ充足ニ遺憾ナキヲ期  
スルコト

朝鮮ハ<sup>獨</sup>内外ヨリ毎年多量ノ勞務者ノ供出ヲ要請セラレツツアリマ  
スガ時局下朝鮮ニ於ケル重要事業ニ於ケル勞務者ノ充足ニ遺憾ナカ

ラシムル様女子等ノ代替勞務促進ノ方策ヲ講ジマスト共ニ勞務者募  
集及紹介ニ關スル法的制度ヲ改廢整備シ又本府並ニ地方官廳ニ於ケ  
ル勞務行政機構ノ充強化ヲ圖ル必要ガアルモノト存ジテ居ル次第  
デアリマス

(三) 勞務者ノ質的向上ヲ圖ルコト

民度其ノ他ノ原因ニ沿由スル朝鮮人勞務者ノ質的低位ハ不可變的モ  
ノデアリマセン現ニ學校教育ノ普及及國民教育の事業ノ進展ニ伴  
ヒ漸次其ノ向上ヲ見ツツアルモノデアリマスガ未ダ内地ニ比較シ遺  
憾ノ點ガ尠クナイノニ鑑ミマシテ勞動力ノ保持增強方策トシテ勞務  
者ニ對スル教育訓練ノ徹底ヲ圖リ以テ質的向上ヲ促ス必要ガアルモ  
ノト存ジテ居リマス

## (四) 勞務管理ノ改善及厚生施設ノ整備ヲ圖ルコト

工場、事業場ニ於ケル勞務者ノ取扱ヲ見マスルニ一般ニ勞務ニ關スル關心ガナク勞働生産性ニ對スル科學的研究ヲ行ハズ特ニ其ノ民族性ヨリ派生スル諸條件ニ對スル適應ナル認識ナク從テ勞務管理ノ方面ニ付キマシテハ遺憾ノ點尠クナイノデアリマシテ速ニ其ノ對策ヲ講ズルト共ニ賃金其ノ他ノ勞働條件ノ合理化並ニ住宅其ノ他ノ厚生施設ノ整備擴充ヲ期スルノ要アリ併セテ勞働立法ノ整備ヲ爲スノ要アルモノト存ズル次第デアリマス

## (五) 技術勞務ノ擴充強化ヲ圖ルコト

朝鮮ハ一般ニ民度ノ<sup>低</sup>ポイント又近代工業化ノ遅レテキルノトニ依リ朝鮮ニ於ケル技術勞務ハ從來殆ンド内地依存ノ狀況デアリマシタガ

近時工礦業ノ躍進的興隆ニ伴ヒ技術勞務ノ需要逐年増大シテ居リ一方半島産業ノ負荷スル我が國兵站基地の使命ニ鑑ミマシテ技術勞務ニ付テモ從來ノ内地依存ヨリ可及的速ニ脱却シ自給自足ノ域ニ達スル様其ノ增強ヲ圖ルノ要ガアルンデアリマス之ガ對策トシマシテ現在實施シツツアル事項ハ工場事業場技能者養成令ニ依ル技能職工及鑛夫ノ養成及見習工ノ内地工場ニ對スル委託等デアリマスガ今後ハ更ニ一段ト此ノ擴充強化ヲ期シテ居ル次第テ御座イマス

## (六) 内地人タル技術者、技能者ノ增強ヲ圖ルコト

優良ナル内地人ノ増加定着ヲ策シマスノハ半島統治上不可缺ノ要件デアリマスガ産業ノ分野ニ付テモ特ニ内地人技術者及技能者ノ大量

進出ヲ圖リ内地人ノ增強ニ依ル統治ノ進展ヲ期スルト共ニ半島技術  
水準ノ向上ヲ促スルハ特ニ喫緊ノ要務デアルト存ズル次第デアリ  
ス



三二 朝鮮ニ於ケル勞働立法ノ狀況如何

朝鮮ニ於ケル産業ハ從來農業ヲ以テ大宗トシ工鑛業ハ最近漸ク勃興シ來ツタ様ナ譯デアリマシテ工鑛業ノ發達ノ遲レタ朝鮮ニ於キマシテ勞銀其ノ他勞働者ノ福利施設ニ付多キヲ望ムコトハ却ツテ産業ノ發達ヲ阻害スルト考ヘラレ且又民衆ノ生活程度低ク他産業トノ關係モアリ内地ニ於テハ工場法、勞働者災害扶助法、退職積立金及退職手當法、健康保健法等ノ施設ガアリマスガ朝鮮ニ於テハ僅ニ鑛業勞働者ニ對スル扶助ノ規則等ガアル丈デアリマシテ事變以來國家總動員法ニ基キ内地ト同様賃金、勞働時間等ニ付統制法令ヲ發布シ當面ノ急ニ應ジテ參ツタノデアリマス然シナガラ近時工鑛業ハ勿論土木建築等ノ部門ニ於テモ勞働者ハ量的ニモ漸次不足ヲ告ゲツツアルノ

シテ無ク災害扶助、制度其ノ他ノ勞働條件工場衛生其ノ他ノ福利施設ニ付改善ヲ加ヘ勞働者保護ノ十全ヲ期スルト共ニ産業ノ健全ナル發達ヲ圖リ戰時下生産力擴充ニ遺憾ナキヲ期サネバナラナイト存ジ勞働立法ニ付目下研究中デアリマス

三三 朝鮮人勞務者ノ能率如何

從來朝鮮人勞務者ハ概シテ怠惰鈍重デ勞働能率が低イ  
 トノ批評カアリマシタガ施政以來産業開發ノ氣運進ミ  
 諸企業勃興シテ著シク朝鮮人ノ理財心ヲ刺戟シ他面勤  
 勞精神ヲ鼓吹シ特ニ今次事變以來國民精神總動員運動  
 及國民總力運動ニ依リ國民ノ勤勞ヲ強調シテ參リマシ  
 タノヲ昔日ノ様ナコトハ全然ナク例ヘバ土木建築業ニ  
 於ケル普通勞働者ノ如キ純筋肉作業ニアリテハ内地人  
 ニ比シ遜色ナク強靱ナル體力ヲ要スル作業ニ於テハ却  
 テ優レテ牛ル程デアリ鑛山勞務者ノ如キ多少ノ知能ト  
 技術ヲ要スル作業ニアツテハ内地人勞務者ノ七割ノ能  
 率ト推定サレテ居リマス但シ保安上重要ナル作業トカ  
 高度ノ熟練ヲ要スル作業等ニハ未カ朝鮮人勞務者ヲ使

用スル場合ハ少イ様デアリマス婦人勞働力ニ關シテハ  
 近時野外農業勞働ニ従事スル者ノ數が多クナリマシテ  
 昔トハ比較ニナラナイ程デアリマス又紡績工場ニ於テ  
 ル内鮮女子ノ能率ノ比ハ約八割ト見込マレテ居リマス  
 要スルニ個人トシテノ體質性能ニ關シテハ内鮮間確ク  
 ル差異ヲ擧ケ難イノデアリマスカ朝鮮人勞務者ノ大多  
 數ハ普通教育ヲ受ケテ居リマセンノテ今後教育ノ普及  
 勤勞精神ノ昂揚、賃金制度ノ適正具ノ他勞務管理ノ改  
 善ヲ見<sup>ル</sup>於テハ勞働能率ニ就テ内鮮人間ニ大ナル程度  
 ナキニ至ルデアラウト思ハレルノデアリマス





三四 朝鮮人ノ技術者又ハ勞務者トシテノ適應性如何

朝鮮ニ於テハ最近マテ大工業ナク技術ニ関スル教育施設  
 又殆ンドナク一般ノ思想傾向トシテモ法文系統ノ志望者  
 ハ相當アリマスガ、理工學部ニ進ム者少ク朝鮮人技術者  
 トシテ産業界ニ貢献シタル者ハ殆トナイノテアリマス國民職  
 業能力申告令ニ依ル登録者ニ付テミマシテモ技術者總數  
 中朝鮮人技術者ハ僅カニ其ノ二割九分ヲ占ムルニ過ヤズ  
 而モ大多數ハ土木建築関係ノ低級技術者ニ過ヤナイノテ  
 アリマス從ツテ技術者トシテノ適應性如何ニ関シ適確  
 ナ斷案ヲ下シ難イノテアリマスガ實地應用ノ才能ニ於  
 テ相當遊色アルヤウニ思ハレルノテアリマス  
 技能職エトシテノ朝鮮人勞務者ハ國民職業能力申告令  
 ニ依ル登録ニ依レバ内地人職工ハ技能程度ハ一三級ニ

凡均等ニ分布シラルニ及シ朝鮮人職工ハ一級約一割二級  
 約三割三級約六割ニシテ下級技能者ノ比率圧倒的ニ  
 高イノテアリマスガ最近養成工ノ成績ヲミマスト成績極  
 メテ良好ナ内地人養成工ニ比シ此ノ遊色キナク之ニ依ッ  
 テ見レバ現在職工ノ技能ノ低イガ教育ノ普及シテ井  
 ナイコトト朝鮮工業ノ發展ハ遂ニ技術傳習ノ機會ガナ  
 カツタコトニ由ルモノト曰ハレマス現在責任觀念ノ缺ク之  
 移動性多キコト、怠惰性強キコト等ノ缺點ガアリマスカ  
 反面單調低級ナル作業ニ克ク耐ヘルトイフ長所モアリ  
 今後ニ於テ教育ヲ普及シ、作業場ニ於ケル勞務管理ノ  
 徹底ヲ圖リ、勤勞精神ヲ白即揚セシムルトキハ技術者  
 又ハ勞務者トシテ内地人ニ比シ遊色ナキニ至ルテアラ  
 ウト思ハレマス

三九 時局下朝鮮ニ於ケル労働争議ノ状況如何又之ト  
民族問題トノ牽聯如何

朝鮮ニ於ケル労働争議ハ經濟界ノ變動或ハ社會主義  
運動ノ消長ニ伴ヒ其ノ發生件数ニモ増減カアリ昭和  
一、二年ニハ百件ニ滿タナカシタノスアリマスハ昭  
和六年ニハ二百件ヲ超エルニ至リ其ノ後減少シテ事  
變後ハ昭和十四年ノ百四十六件ヲ除キマシテハ總テ  
百件ニ滿タナイ狀況スアリマス之ハ勞資相互ノ自覺  
ト共產主義運動ノ衰頹トニ依ルベクスアリ誠ニ喜スベ  
キ現象スアリマスハ支那事變ノ長期化ニ伴ヒ物資ノ  
統制ハ強化セラレ平和産業方面ニハ相當苦シクナリ  
又物價騰貴ト労働者ノ不足トノ關係カラ待遇問題ニ  
付紛糾ヲ生シ昭和十四年ニハ急ニ増加致シタモト

認マラレルノスアリマス然シ賃銀臨時措置令ノ制定  
等ニ依リ昭和十五年ニハ争議件数ノ減少ヲ見タノス  
アリマス共產主義乃至民族主義運動ニ対シマシテハ  
徹底的取締ヲ加ヘテ居リマス關係上最近此等運動ニ  
關係シテ争議ハナク其ノ内容モ賃銀値上等多ク民族  
問題ト直接關聯セルモノナク唯今後事變ノ長期化ニ  
伴ヒ勞資間ニ種々ノ問題ヲ生スベク共產主義、民族  
主義運動カ之ニ生ズル機會ニ生ズルトト豫想セラ  
レマスノス労働行政、經濟統制ニ充分留意致シマス  
ト同時ニ思想ノ善導ト取締ノ強化ヲ圖リタイト考ヘ  
テ居リマス

三六 労働者ノ内地渡航ニ対スル方策如何  
 従来朝鮮人労働者ノ内地渡航ニ対シマシテハ内地ニ  
 於ケル労働需給関係内地ニ移住セル朝鮮人労働者ノ  
 失業等ニ鑑ミマシテ之カ漫然渡航ノ制限ヲ致シテ居  
 リマシタカ支那事変勃發以來内地ニ於ケル軍需産業  
 並ニ生産力充計畫産業等ニ於ケル労働力ノ需要カ  
 著シク増大致シマシテ内地所在勞力ノミズハ之カ充  
 足ノ因滑ヲ期スルコトカ出來ズ國策遂行上多大ノ支  
 障ヲ見ルニ至リマシタ之カ労働力ノ充足措置ト致シ  
 マシテ朝鮮人労働者ノ募集ニ依ル集團的内地移住ヲ  
 必要トスルニ至リマシタ状況ニ鑑ミマシテ本府ニ於  
 キマシテモ積極的ニ之ニ協力スルコトトシ昭和十四  
 年度内地樺太等ヲ併セ五万三千人昭和十五年四万  
 八千人昭和十六年度ニ於テ八万人ヲ供出スルコト  
 ニナツテ居リマス

三七 内地渡航勞務者ニ對シテハ朝鮮總督府ハ訓練其ノ他ノ對策ヲ講セリヤ

募集ニ依ル集團的内地移住勞務者ハ總テ時局産業ニ従事スル者デアルノミナラズ就業上及日常生活上ニ於キマシテ内地人トノ間ニ些カノ摩擦モナカラシムコトヲ期スル必要ガアリマスノデ之ガ供出ニ付テハ嚴選方針ヲ採リ優良勞務者ノ移住ヲ促進スル妥アルニ鑑ミマシテ昭和十四年七月朝鮮總督府及内地關係機關ニ於テ協定シマシタ朝鮮人勞務者内地移住ニ關スル件ニ基キ政務總監通牒ヲ發シ募集ニ依ル集團的内地移住ノ重要性ヲ強調シ選出地及離離地關係廳ニ於テ左ノ如キ内地渡航後ノ心得ヲ説示シ充分之ガ諒得ヲ爲サシメ尙身元及思想動向等ニ付嚴重調査ヲ行ツテ居リマス

一、時局産業ニ従事シ以テ國家ニ貢獻セントスルモノナルコトヲ認識シ

其ノ責任ノ重大ナルコトヲ自覺シ率先シテ内鮮一體ノ促進ニ努力スベキコト

- 二、内地渡航後ハ所定ノ訓練所ニ入所シ訓練ヲ受クベキコト
- 三、職場ノ變更ハ蓋リニ之ヲ爲サザルコト
- 四、協和會ニ加入シ其ノ會員章ヲ所持スベキコト
- 五、妻帶者ト雖モ訓練中ハ妻子ヲ呼稱スルコトヲ得ザルコト
- 六、内地ノ生活風習ニ順應シ内地人ノ嫌惡スルガ如キ所爲ナキコト
- 七、言語ハ成ルベク早く國語ニ習熟シ之ヲ使用スルコト
- 八、賃金ハ生活費ニ必要ナル額以外ハ之ヲ貯蓄スルコト
- 九、公租、公課、家賃等ノ滞納ハ必ズ之ヲ爲サザルコト
- 一〇、學齡ニ達シタル子女ハ必ズ就學セシムベキコト

一、其ノ他協和會幹部、警察官及職業指導所職員ノ指示ニ服スベキコト  
 尙中央協和會ノ專業助成ノ爲毎年度五萬圓程度ノ助成金ヲ交付シテキ  
 ル外本府及地方廳職員ヲ屢次現地ニ派遣シテ直接指導ヲ爲シ又就學兒  
 童等ヨリノ通信ニ依リマシテ慰問激勵ヲ爲サシメツアリマス其ノ外移  
 住勞務者ノ中心人物タルベキ者ノ養成訓練ノ必要ヲ認メマシテ朝鮮勞  
 務協會ヲシテ南嶽七道ニ訓練所ヲ設置セシメ主トシテ精神的訓練ヲ行  
 フ計畫デ本年度ニケ所ニ此ノ訓練所ヲ設置方準備中デ御座イマス

三八 内地ニ於ケル朝鮮人労働者ノ状況及對策如何  
 内地在住朝鮮人ハ百万人ヲ超工其ノ級中ハ労働者デ  
 アリマス彼等ハ各種職工、炭坑労働者、土工夫、一般  
 使用人等凡ユル業務ニ從事シテ居リマス朝鮮人労働者  
 ハ曾テ朝鮮ニ於テ小作農又ハ日稼労働ニ從事シ特別ノ  
 技能ヲ有セナイ為ニ渡航後大部分ハ都市ニ入込直ニ  
 勞銀ヲ得ラレル自由労働者ト為ルヲ常例ト致シテ居リ  
 マシタカ支那事變勃發以來内地ニ於キマシテ軍需産業  
 茲ニ生産力擴充計畫産業等ノ労働力ノ需要ガ著シク増  
 大致シマシタニ伴ヒマシテ産業戰士トシテ時局産業ニ  
 從事シ國力進展ニ寄與シツツアルコトハ誠ニ同慶ノ至  
 リデアリマス尚總督府ト致シマシテ天中央協和會等ト  
 協力朝鮮人ノ内地同化ヲ基調トシ生活ノ改善、教育ノ  
 普及徹底、朝鮮人密集地帯ノ保安衛生其ノ他生活状態  
 ノ改善向上ヲ圖リツツアルノデアリマス

## 三九 協和會事業ノ狀況如何

協和事業ノ目的ハ第一ニ「一視同仁」ノ聖旨ヲ奉體致シマシテ之ヲ事業ノ出發點トシ指導精神トシ又歸着點ト致シテ居リマス第二ニハ内地ニ在住スル外地同胞ヲ速ニ内地ノ生活ニ融ケ込マシムルモノデアリマシテ協和會ノ實施機關ト致シマシテハ中央協和會ガ厚生省社會局内ニ設ケラレマシテ厚生省、内務省、文部省、拓務省並ニ朝鮮總督府等ノ大臣總督其ノ他關係官及内地、朝鮮ノ第一流ノ民間人士ヲ顧問又ハ理事、評議員トシテ組織サレテ居ルノデアリマシテ地方ニ於キマシテハ道府縣廳ノ外郭團體ト致シマシテ四十六ノ道府縣協和會ガ設ケラレ下部機關トシテ各警察署ヲ中心トシテ千五十ノ支會ヲ設ケ其ノ下ニ分會或ハ指導區ガアリ又分會、指導區ハ數箇ノ輔導班ニ分ダレテ居リマス輔導班ハ十世帯乃至二十世帯程度ヲ以テ組織致シマシテ班中ノ最モ德望ト教養アル者ヲ輔導員ニ依俎シテ居リマス協和事業ノ方法ト致シマシテハ

(一) 外地ノ人々ヲ内地生活ヲ基準トシテ指導教化シ生活ノ安定向上ヲ圖リ盡中ノ精神ヲ啓培スルコト

(二) 内地ノ人々ノ外地同胞ニ對スル理解ヲ啓發シテイワレノ無イ優越感ヲ棄テ去ラセテ相互ノ信頼ヲ深メ相愛ノ情誼ノ促進ニ努ムルコトデアリマス

四〇 事變終了後ニ於ケル内地渡航勞務者ノ處置方針如何

今次事變發生ニ伴フ勞務需要ノ増大ハ全國的現象デアリマシテ朝鮮自体ニ於テモ之ガ調整ニ多大ノ困難ヲ見ツツアルノデアリマスガ内地ニ於ケル勞務動員計畫ノ實施ニ寄與センガ爲昭和十四年七月朝鮮總督府及内地關係廳間ノ協定ニ依ル朝鮮人勞務者内地移住ニ關スル件ニ基キ全年九月以降多數ノ朝鮮人勞務者ヲ集團的ニ内地ニ移住セシムルコトトナリマシタガ之等勞務者ハ眞ニ皇國臣民トシテ勇躍内地ノ時局産業ニ就勞シ國策ニ貢獻シツ、アル次第デアリマス然ルニ事變ノ終了ニ伴フ事業ノ縮少又ハ廢止及軍要員ノ復員等ニ於ケル失業等ノ現象ハ全國的デアル事ヲ豫想セラレ朝鮮ニ於テモ之ガ爲失業救濟事業ノ實施、輸出ノ振興、鮮外移民ノ奨励、轉職ノ斡旋、歸農者ニ對スル耕地ノ配分

工場事業場ニ於ケル交替制ノ實施、就勞時間ノ制限等各般ニ亘リ施策スル必要ガアリマシテ單ニ内地側ノ一方的失業對策ノ見地ヨリ是等多數勞務者ノ歸鮮ヲ措置スルコトハ朝鮮ノ治安並ニ産業政策上遺憾トスル所ナルニ鑑ミ斯ル場合ニ於ケル是等勞務者ノ處置方針ヲ豫メ協定シ置ク必要アリト認メマシテ右協定中ニ於キマシテ左ノ遺決定シ措置スルコトニ協定ヲ見タ次第テゴザイマス

○事業ノ縮少又ハ中止終了等ノ場合ニ於ケル朝鮮人勞働者ノ措置ニ付テハ極力内地ニ於テ之ガ轉職ノ斡旋其ノ他適當ナル對策ヲ講ズルト共ニ内地同様歸郷海外ヘノ移住等ヲ奨励スルコト



尙本府ニ於キマシテモ昭和十四年度ヨリ中央協和會及地方協和事業  
 團體ニ對シマシテ總額五萬圓ヲ補助シテ參リマシタガ本年度ヨリ之  
 ヲ七萬圓ニ増額致シマシタ又昨年野口遼氏ヨリ篤志寄附ノ五百萬圓  
 ヲ持テマシテ内地ニ修學スル約一萬五千人ノ半島人學生生徒ノ指導  
 保護機關トシテ朝鮮獎學會ノ設立ヲ見ルニ至リマシタ

第三 殖産局改組

M-0028

0057

## 四一 殖産局改組ノ理由如何

朝鮮ニ於ケル生産力擴充事務ヲ司掌スル部局ハ工、礦業事務ヲ掌ル殖産局デアリマスガ時局下生産力擴充計畫遂行ノ緊要性ニ鑑ミ之ガ遂行ノ圓滑敷速ヲ期スル様同局ノ改組ヲ爲サントスルモノデアリマス而シテ

第一點トシテハ工、礦業ニ關スル生産力擴充事務遂行ノ基礎的條件デアル電氣ニ關スル事務ヲ外局タル遞信局ヨリ移管シ殖産局ニ統合セルコト

第二點トシテハ朝鮮ガ帝國不可缺地下資源ノ供給地ニシテ之ガ急速實施ノ要アルニ鑑ミ礦産機體ヲ強化セルコト

ノ二點デアリマスガ尙之ニ關聯シテ局附勅任事務官ノ設置及物價調整

課ノ企畫部移管等ノ改正ヲモ致シマシタ

四二 鉱山課ヲ鉱政課ト特殊鉱物課ニ分割スル理由如何

事変下重要不可缺資源ノ補給上朝鮮ノ分担スル最重要部面ノ一ハ鉱産部面ニシテ其ノ重要ナルモノハ金、鐵、鉛、石炭、外タンスズレン、鉛、水鉛、燐、黒鉛、雲母、石綿、明礬石、螢石、マネサイト、鉛、亜鉛、錳、コバルト等アリマス然ルニ此等重要事務ハ現在鉱山課、産金課、燃料課ノ三課ノ主管ニ屬シ然モ朝鮮ニ於テハ鉱業ニ関スル地方官廳ノ設置無キヲ以テ内地ニ於テ五鉱山監督局ニ於テ司掌スル事務ヲモ至トシテ右鉱山課ニ於テ處理シツツアルノ状況アリマス斯クテハ到底一課長ノ負担ニ堪エサルノミナラス、鉱業ニ関スル出願、調査、處分及登録ニ関

スル事務ハ助成事業ト之ヲ切離シ一貫的ニ且公平ニ處理セシムルノ機構トスルヲ適當トシ又一面前記各種特殊鉱物ノ開發増産ノ要請ニ應ズル為ニ關スル調査及助成事務ヲ專管スル課ヲ特立スルノ要アリト存シ産金課ヲ分立セルト同趣旨ニ基キ今同鉱山課ヲ鉱政課及特殊鉱物課ニ分離シテ次第アリマス



四三 朝鮮ニ於ケル鑛業状況如何

鑛産部面ハ事變下朝鮮ノ分擔スル最重要部面ノ一デア  
リマシテ其ノ主ナルモノハ金、鐵鑛、石炭ノ外タンク  
ステン鑛、水鉛鑛、黒鉛、雲母、石綿、螢石、マクネ  
サイト、燐鑛、コバルト、ニツケル、明礬石等デアリ  
又此等ヲ原料トスル製鐵事業、人造石油工業、輕金屬  
工業等デアリマス  
而シテ鑛業ノ殷盛化ニ伴ヒ鑛業ノ出願ハ年々著シク増  
加スルニ至リ最近五箇年間ノ出願状況ヲ觀ルニ次ノ如  
キ趨勢ニ在リマス即チ

昭和十一年 六一〇五件  
昭和十二年 八二一六件  
昭和十三年 一五七二一件

昭和十四年 一六四二一件  
昭和十五年 一〇五四八件

トナツテ居リマス此等鑛業ノ出願ニ對シテハ鑛物増産  
上急速ナル處分ヲ為スノ要アルコト勿論デアリマスガ  
限リアル是員ヲ以テシテハ到底急速ナル事務ノ運行ヲ  
期シ難ク爲ニ年々未處分件數ハ累増シ昨十五年末ニ於  
テ五万九千餘件ヲ算スルニ至リタルガ如キ状況デアリ  
マスガ之ニ對シマシテハ必要ナル要員ヲ漸次増置シ可  
及的急速ナル處理ニ當ルコトニ致シテ居リマス尚鑛種  
別増産計畫及其ノ實績ハ別項四四所述ノ通デアリマス

四 朝鮮ニ於ケル重要鉱物増産計畫並ニ其ノ實績如何  
 軍需其ノ他トシテ必要不可缺ノ黒鉛、鐵鉱、タンクスレン  
 鉱、水鉛鉱、黒鉛、雲母、石綿、螢石、マンネサイト、燐鉱、  
 コバルト、ニッケル、明礬石又ハ金、石炭等ノ重要産物  
 ハ今次事変勃發以來其ノ需要ハ逐年激増致シマシテ又  
 他面輸入ノ抑制ニ依リ國內ニ於キマシテ之カ増産ヲ圖  
 ルコトハ喫緊ノ要事トナツテ参リマシタ而シテ此等ノ生産  
 カ拡充計畫ニ對スル朝鮮ノ分担スル部分ノ日本全体ニ  
 對スル割合ハ鐵鉱ニ於テ五七%、タンクスレンニ於テ九  
 〇%、水鉛鉱ニ於テ八三%、黒鉛一〇〇%、雲母一〇〇%、石  
 綿八〇%、螢石九八%、金五五%、云々アリマシテ産部面ニ  
 於ケル朝鮮ノ重要性ヲ窺フニ足ルト思ヒマス而シテ之等  
 重要産物ノ朝鮮ニ於ケル増産計畫並ニ實績ハ概ネ左

ノ如クテ御座イマス

(一) 鐵鉱 朝鮮ニハ鐵鉱床ノ賦存豊富アリマシテ茂山鐵  
 山ニ付キマシテハ二〇〇万噸ノ生産設備モ近ク完成ノ  
 際定テアリマスシ其ノ他開發中ニ屬スルモノニ襄陽  
 鐵山(年産三〇万噸目標)、三和鐵山(年産三〇万  
 噸目標)、三菱端川鐵山(年産三〇万噸目標)等存シ  
 又利原鐵山、壽鐵山ニ目下拡張計畫中ニシテ其ノ他ノ  
 諸鐵山亦増産ニ努メツツアリマス而シテ生産計畫ト  
 致シマシテハ昭和十六年ニ〇八万噸、昭和二十年四三〇万  
 噸ヲ目標ト致シテ居リマス昭和十五年實績ハ一〇九万  
 噸ニアリマス

(二) タンクスレン、水鉛、特殊鋼ノ製造原料トシテハ  
 要不可缺ノ此等資源ハ國內ニ於テハ主トシテ朝鮮ノ

生産ニ依存シ居ル現状ヲ御座イマシテ生産計画ト致シ  
 マシテハタンクスズン鉱ハ昭和十六年五、〇〇〇吨、昭和二十  
 年六、二〇〇吨、水鉛鉱ハ昭和十六年二、二〇〇吨、昭和二十年  
 三、五〇〇吨ヲ目標ト致シテ居リマス、昭和十五年実績ハ  
 タンクスズン鉱四、五〇〇吨、水鉛鉱一九六吨アリマス

(三) 黒鉛 鱗状黒鉛、土状黒鉛共ニ朝鮮ニ豊富ニ賦存シ其  
 ノ産額ハ既ニ世界ノ首位ヲ占ムル現勢ニ在リ土状黒  
 鉛ハ國內自給ノ域ニ達シ毎年相當量ヲ國外ニ輸出シ  
 居リ鱗状黒鉛ハ坩堝、電極等ノ製造原料トシテ重要  
 用途ニ供セラレルモノアリマス、カ事変以來之ヲ輸入  
 困難トナリタル關係上朝鮮ニ於ケル急速ナル増産ハ  
 要望セラレテナル現状アリマス、生産計畫ト致シマ  
 シテハ鱗状黒鉛ハ昭和十六年二、二〇〇〇吨、昭和二十年

二五、〇〇〇吨、土状黒鉛ハ昭和十六年七三、〇〇〇吨、昭和  
 二十年八〇、〇〇〇吨ヲ目標ト致シテ居リマス、昭和十五年  
 実績ハ鱗状黒鉛二、一〇〇〇吨、土状黒鉛七三、〇〇〇吨、  
 アリマス

(四) 雲母 發火栓、電氣機密用絶緣体トシテ使用セラレ  
 軍需用並ニ生産力拡充機器製造上必要不可欠ノ原  
 料資源テアリマシテ國內生産ハ之ヲ朝鮮ニ托ルノ外  
 ナク生産計画ト致シマシテハ昭和十六年一六〇吨、昭和  
 二十年五〇〇吨ヲ目標ト致シテ居リマス、昭和十五年

実績ハ一六六吨(屑雲母ノ含む)アリマス  
 (五) 石棉 耐熱用及電氣ノ絶緣材トシテ極メテ多量ニ用  
 ヒラレ重要ナル資源アリマス、カ從來國內ニ於ケル生  
 産見ルベキモノナク主トシテ輸入ニ依存シ来ツタノアリ

マスか之か輸入に頼るに及ぶ国内資源ノ開發カ強  
 調セラレ特ニ朝鮮ニ於ケル増産カ要望セラレルニ至ツテ  
 居ルノテアリマス之に伴ヒ銳意鉍床ノ開發ヲ促進致シ  
 テ居リマス最近ニ於テハ有望ナル鉍床漸次發見セラレ  
 其ノ中ニ品質極メテ良好ナルモノモ存シ其ノ前途ハ  
 大イニ期待セラレルニ至ツテ居リマス生産計画ト致シ  
 マシテハ昭和十六年ニニ〇〇噸昭和二十年四、〇〇〇噸ヲ目  
 標ト致シテ居リマス昭和十五年実績ハ二、一〇〇噸ヲア  
 リマス

(六) 螢石 製鋼用媒熔劑及アルミニウム製造用人造冰晶  
 石ノ原料トシテ使用セラレ時尙下重要ナル意義ヲ有  
 シテ居リマス内地ニ於キマシテハ之カ産額ノ見ルベキニ  
 ナク朝鮮カ主ナル供給地ニアリマシテ銳意増産ニ

努メツツアリマスカ單ニ數量的ノ増産ニ止ラズ高品位  
 位鉍ノ増産ニカラ注キ其ノ実績モ顯著ナルモノカアリマス  
 生産計画ト致シマシテハ昭和十六年四二、〇〇〇噸昭和  
 二十年六六、〇〇〇噸ヲ目標ト致シテ居リマス昭和十  
 五年実績ハ二四、〇〇〇噸ニアリマス

(七) マグネサイト マグネシヤ煉瓦等ノ高級耐火材ノ  
 製造原料トシテ使用セラレ又近時金屬マグネシウムノ  
 製造原料トシテ使用セラレテ居リマシテ朝鮮ニハ埋藏  
 量約三〇億噸ト稱セラレル一大鉍床ヲ始メ尙大ナマ  
 クネサイトノ鉍床カ賦存シテ居リマス生産計画ト致  
 シマシテハ昭和十六年九四、〇〇〇噸昭和二十年六〇、〇〇〇  
 噸ヲ目標ト致シテ居リマス昭和十五年実績ハ七三、〇〇〇  
 噸ニアリマス



(ハ) 燐鉱 燐酸質肥料ノ製造原料トシテ重要ナル  
 資源ニアリマス。從來我國ニ於テハ南洋方面ヨリ一部  
 ノ生産ヲ見需要ノ大半ヲ外國ヨリ輸入シ、東ツタノテアリ  
 マス。然ルニ昭和十四年朝鮮ニ燐灰石ノ鉱床發見セラ  
 レ、調査ノ結果其ノ鉱量亦尠大ナルモノ存スルコト判明シ  
 マシタノテ、連ニ之ヲ開發ヲ圖ルコトトシ、目下着々進捗  
 中ニアリマス。生産計畫ト致シマシテハ、昭和十六年六〇、  
 〇〇〇 吨、昭和二十年三五〇、〇〇〇 吨ヲ目標ト致シテ居  
 リマス。

(九) コバルト鉱及ニッケル鉱 コバルト鉱及ニッケル鉱共  
 ニ特殊鋼ノ原料トシテ貴重ナル資源ニアリマス。最近  
 朝鮮ニ於テ優良ナルコバルトノ鉱床發見セラレ、之カ多心  
 連ナル生産ヲ期スベク、目下鋭意開發ニ努メツツアリマ

ス。又ニツケル鉱ハ從來ヨリ其ノ鉱床存シタノテアリマス  
 カ良品位ノモノニ乏シク、差シタル開發ヲ見、今日ニ  
 及ヒマシタカ、最近ニ於テ相當有望ナル鉱床發見セラ  
 ルルニ至リマシテ、目下鋭意探鉱ニ努メツツアリマス。生産  
 計畫ト致シマシテコバルト鉱ハ昭和十六年一、二〇 吨（一〇  
 ％）、昭和十八年三、二〇〇 吨（全上）、ニッケル鉱ハ昭和十  
 六年三、〇〇〇 吨（〇、三％）、昭和十八年一〇、〇〇〇 吨（全上）  
 ヲ目標ト致シテ居リマス。

(ロ) 明礬石 朝鮮ニハアルミニウム製造原料タル明礬石ノ  
 鉱床存シ旧時大イニ注目セラレタル所ニアリマス。其ノ  
 後輸入鉱タルボーキサイトヲ主タル原料トスルコトト為リ  
 タル為明礬石ノ開發モ差シテ見ルベキモノアリマセン。近  
 タカ最近ニ國內資源ニ依ルコトカ強調セラレルニ及ヒ漸

次之開發ノ氣運ニ向ヒツツアリ殊ニ最近ニ於テハ加  
 里製造ノ原料トシテ極メテ重要視セララルニ至リ相當  
 大規模ナル開發カ企圖セラレツツアリマス生産計畫ト  
 致シマシテハ昭和十六年四〇、〇〇〇 吨昭和二十年三〇〇、  
 〇〇〇 吨ヲ目標ト致シテ居リマス昭和十五年実績ハ  
 三七、〇〇〇 吨ニアリマス

四五

朝鮮ニ於ケル産金ノ状況及將來ノ政策如何  
朝鮮ハ由來産金地トシテ知ラレテ居リマス其ノ特色  
トスル所ハ

(一) 開發後未ダ多クノ年數ヲ經過セズ機械化ノ程度低  
ク將來性ニ富ム事

(二) 金鑛區ノ分布朝鮮ニ及ビ昭和十五年末鑛區數一万  
ニ及セントセルコト

(三) 含金品位良好ナルコト  
(四) 砂金鑛床ノ賦存豊富ナルコト

等デアリマス然ルニ昭和六年當時ニ於ケル産金額ハ十  
兆ニ足ラザル狀況デアリマシタ其ノ後政府ノ獎勵及

金價格ノ昂騰ノ情勢ニ順應致シマシテ産金事業ニ漸次  
隆盛ニ赴キ昭和十一年度ニ於テハ二十兆ノ産金額ヲ擧

グルニ至リマシタ偶々昭和十二年帝國全版圖ニ亘リ産  
金五ヶ年計画樹立セラルルヤ朝鮮ハ其ノ大半ノ計画ヲ

分担シ昭和十七年ニ於テ産金目標ヲ七十五兆(約三  
億圓)ト定メ之ニ必要ナル獎勵助長ノ方策ヲ講ジテ參

リマシタ即チ産金關係法令ノ整備各種獎勵金ノ交付實  
地ノ調査指導又ハ産金送電線及金山道路ノ建設日本産

金振興會社ノ支店設置等が主ナル獎勵指導ノ方策デア  
リマス

而シテ其ノ後ニ於ケル産金實績ヲ見ルニ  
昭和十三年 三〇兆  
同 十四年 三一兆

同 十五年 二六兆強  
デアリマスが昭和十五年減産ヲ示セル原因トスル所ハ



概不左ノ莫ニ在ルト存セラレマス即チ

(イ) 資材物資ノ不足及機械類ノ粗悪

(ロ) 勞力ノ不足

(ハ) 採算難ニ因ル企業心ノ減少

(ニ) 獨逸經濟相フンクノ聲明ニ依ル金鑛業ノ将来性ニ

對スル不安

ヲ主ナルモノト思料致シマス當局ト致シマシテハ折角

此等惡條件ノ芟除ノ對策ヲ考究實施中デアリマス

高産金ニ關スル今後ノ政策ハ曩ニ政府ニ於テ之ヲ明ニ

致シマシタ通り少クトモ現狀維持ノ方針ヲ以テ進ム積

リデアリマス

四六 電氣ニ關スル事務ヲ遞信局ヨリ殖産局ニ移管スル  
 理由如何  
 遞信局ハ主トシテ通信ニ關スル現業的事務ヲ司掌シ之  
 ヲ敏速ニ處理セシムル爲獨立官廳トシテ鐵道局、專賣  
 局ト並ニ本府ノ外ニ置カレテアルノデアリマスガ電  
 氣ニ關スル事務ハ生産力擴充殊ニ工鑛業開發ノ基礎的  
 條件ヲ爲スモノデアリマシテ本府首腦部及各局ニ關聯  
 スル所最モ密接デ此等各種ノ事情ニ稽エ之ヲ遞信局ニ  
 置クヨリ本府ニ移シ工鑛業主管局タル本府殖産局ノ所  
 管ニ移スヲ適當ト認メタ次第デ御座イマス

四七 瓦斯ニ関スル事務ヲ逓信局ヨリ殖産局ニ移  
 管スル理由如何  
 瓦斯ニ関スル事務ハ電気ニ関スル事務ト共ニ逓信局  
 電気第二課ノ掌理スル所ナリマシタカ今同電気ニ  
 関スル事務ヲ本府ニ移管スルニ伴ヒ瓦斯ニ関スル事  
 務ノ性質及牽聯性ニ鑑ミ之ヲ殖産局燃料課ノ所管ニ  
 移スラ適當ト認メタ次第ニアリマス

四八 電氣ニ關スル行政機構ヲ内地ニ於ケル機構ト異ニスルモ差支ナ

キヤ

朝鮮ニ於ケル電氣行政モ申ス迄モ無ク朝鮮總督ガ行フモノデアリマシ  
テ其ノ輔佐機關ガ逓信局長ヨリ殖産局長ニ變ツタトテ之ガ爲對逓信省  
ノ關係等ニ於テ不都合ナル不便ガ生ズルコトハ何等無イト存ジマス  
尙朝鮮ニ於テ電氣ノ主管局ヲ變更シタカラトテ直ニ内地ニ於テモ之ガ  
所管廳ヲ變更セザルベカラザルモノトハ考エマセン即チ朝鮮ニ於ケル  
逓信局ハ外局トシテ寧ロ現業的業務ヲ其ノ主要ナル事務トシテ居ルニ  
鑑ミマシテ電氣事務ハ之ヲ本府ニ移スヲ適當ト認メタノデアリマシテ  
各省間ノ事務分配トハ何等關聯イモノト存ジマス



四九 電氣ニ関スル事務ハ企畫部ノ所管トシ又ハ土木課ト關聯セシムルヲ適當トセズヤ

電氣ニ關スル事務ハ産業經濟ノ全部門ニ互ル基礎的行政事務トモ謂ヒ得ラレ之ヲ企畫部所管ト爲スノハ一應理由アル様デアリマスガ朝鮮總督府ノ企畫部ハ物資ノ需給調整ノ外ハ國土計畫、國家總動員計畫ノ綜合等基本的計畫ヲ樹立スルニ止マリ之ヲ實施スルハ夫々各主務局ニ擔當セシムルモデアリマスカ其ノ性質上電氣行政事務ヲ自ラ擔當スルノハ適當デナク殖産局ノ如キハ慶分事務ヲ掌リ殊ニ工礦、水産業等ニ関スル事務ヲ主掌シマシテ電カトノ關係最モ深イノデアリマスカラ之ニ所屬セシムルヲ適當ト考ヘルノデアリマス、次ニ土木課ニ於キマシテハ水力電氣建設工事ニ付マシ

テハ關聯深イノデアリマスガ電氣事業ノ經營トハ關係ナク從テ政策的ニハ關聯ナクヤハリ殖産局ヲシテ本事務ヲ掌ラシムルヲ適當トシ土木事務トハ十分連絡ヲ圖ラシムル様措置スレバ足りルモノト思料致シマス



五〇 朝鮮ニ於ケル電氣事業ノ現状及電力管理ノ方針如何

朝鮮ニ於ケル電氣事業ハ最近著シク發達シ特ニ北鮮地方及西鮮地方ニ於ケル水力發電ノ開發ハ目覺マシキモノカアリマス世界的大發電施設タル鴨綠水電モ既ニ一部送電ヲ開始致シテ居ル狀況ニアリマス而シテ現在ノ發電力ハ約八十万キロワット其ノ外工事中ノモノ約九〇万キロワット之ニ事業許可濟ノモノヲ合シマスレバニ百五十万キロワットニ達スル狀況ニアリマス此ノ豐富低廉ナル電力ニ依リ各種ノ新工業勃興ノ基礎ヲ培ヒ特ニ近時西北鮮地方ノ發展ノ著シイノモノ一ニ水力發電ニ負フ所ト謂ヒ得ルモノニアリマス總督府ニ於キマシテハ電氣事業ノ公共性ニ鑑ミ昭和

六年既ニ之カ統制方策ヲ確立シ之ニ基イテ統制ノ結果ハ現在發送電施設ハ南北ヲニ電力系統ニ統制セラレ又配電事業モ全鮮五ノ五ツクニ企業ヲ合同セシメマシタ然シ更ニ現下ノ緊迫セル要請ニ應ズル為ニ之カ統制ニ再檢討ヲ加ヘ其ノ徹底ヲ期シ度イナ存ジテ居ル次第ニアリマス



五一 殖産局ノ分課ニ付テハ水産課ハ之ヲ殖産局ニ置ク  
ハ合理的ナラズ又高工課モ改組ノ要アルニアラズヤ

(一) 水産課

水産課ハ魚介類等水産食糧是ノ生産ニ關スル事務ヲ掌  
ツテ居マスカラ農林局ニ統合シ食糧行政ノ統一ヲ圖ル  
ノハ一應適切ナル措置ト考ヘラレマスカ農林局ハ現在  
八課ヲ擁シマシテ其ノ事務極メテ多ク更ニ水産行政ヲ  
モ加フルニ於キマシテハ到底一局長ノ負擔ニ堪工得ル  
所デハナク且又水産物ハ油脂工業、罐詰業等ノ工業原  
料トシテノ價值高ク製品ハ貿易品中重要ナル地位ヲ占  
メテ居リマスノデ從來ノ沿革モアル次第ヲ御座イマス  
カラ一應殖産局ニ所屬セシメテ置キ農林局ノ食糧行政  
トノ連絡ヲ緊密ナラシムルコトト致シマシテ今後ノ事

情ニ依リ更ニ善處セント存ズル次第ヲ御座イマス

(二) 商工課

商工課ハ朝鮮ニ於ケル一般商業、貿易、一般工業ノ全  
部門ニ亘リ指導監督ヲ加ヘツツアリマシテ現在職員數  
ハ五十六人ニ及ビ事務繁忙デハアリマスガ今回ハ一應  
分課シナイコトト致シテ居リ近キ將來ニ於キマシテハ  
改組ノ必要カ御座イマセウカ目下研究中デアリマス



五二 殖産局ハ改組ニ依リ其ノ所管事務一局長ノ擔任  
スルニハ膨大ニ失セズヤ

五三 殖産局ニ勅任事務官ヲ設置スル理由及其ノ擔任  
事務如何

殖産局ハ改組ニ依リ商工、鑛政、特殊鉱物、産金、  
燃料、電氣第一、電氣第二、水産、八課ヲ擁シ農林  
ヲ除キ全産業部門ニ亘ル行政事務ヲ担当シ一局長ノ  
担任ト為スニハ負担輕カ過重ト存セラレ而シテ此等産  
業行政ハ何レモ相互ニ緊密ナル連絡ヲ要スルノ事ア  
リマシテ之ヲ分離シ雖ク之ヲ殖産局ニ綜合シタノ事  
アリマスが局長ノ負担ハ余リ重過キマスシ殊ニ局課  
長ハ東上不在トナルコトモ多ク勅任事務官一人ヲ増  
員シ殖産行政ノ全部門ニ亘リ局長ヲ輔佐シ局長不在  
中ハ其ノ代理ヲシ特ニ鑛業行政ニ関シテハ重要ナル  
モノヲ除クノ外ハ同事務官ヲシテ專行セシメルコト  
トシ局長ノ負担ヲ輕減スル方法ヲ講ジマシテ工鑛業  
行政ノ綜合体制ヲ維持シ事務處理ノ統一簡捷ヲ期シ  
タ次第アリマス

第四  
企畫部

M-0028

0005

五四 企畫部ヲ經常化スル理由如何

企畫部ハ臨時官制ニ依リ設置セザレバ國家總動員計畫ノ設定及遂行ニ関スル綜合事務並ニ時局ニ緊要ナル物資ノ配給ニ関スル事務ヲ掌ルモノニアリマス。現下内外ノ情勢ニ即應シテ國家總動員体制ハ恒久化シツツアルノミナラズ同部ニ於テ國土計畫ニ関スル事務ヲモ司掌スルコトナレバ伴ヒ之ヲ經常機構ニ改ムルヲ適當ト認メ企畫部臨時設置制ヲ廢止シテ朝鮮總督府ニ企畫部ヲ新設セントスルモノニアリマス。

五五 國土計畫事務ヲ企畫部ニ所屬セシムル理由  
如何

國土計畫ハ國防、經濟、人口、文化、保安等ノ見地ヨリシテ政治的、經濟的、文化的ノ諸般ノ計畫ヲ土地トノ關聯ニ於テ綜合的ニ合目的ニ構成シ國土ノ綜合的利用開發ノ計畫ヲ樹立スルモノニシテ究極ニ於テ綜合國力ノ發揮ヲ目的トスルモノナルヲ以テ之カ事務ハ國家總動員ニ關スル事務ヲ擔當スル企畫部ニ於テ掌理スルヲ適當ト認メ企畫部計畫課ニ於テ司掌セシムルコトニ致シマシタ



五六 朝鮮ニ於ケル國土計畫事務如何

朝鮮ニ於ケル國土計畫ハ勿論帝國全版圖ニ於ケル國土計畫ノ一部トシテ樹立セラレルノ所アリ從ツテ中央計畫ノ内容トナル譯スアリマス而テ單ナル地方計畫ト異リ<sup>應</sup>朝鮮全土ニ互ル綜合的計畫ヲ樹立シ内閣ニ於ケル綜合的計畫ニ際シ朝鮮ノ事情ニ最モ即應シテ計畫ヲ提出シテ朝鮮統治ノ根本方策ト矛盾ノナク計畫ヲ樹立セントスル所アリ内地ニ於テハ各省ニ分立セル關係上企畫院ニ於テ綜合セラレル所アリマス而テ朝鮮ニハ綜合行政スアリマスカラ一應總督府ニ於テ綜合計畫ヲ樹立シ各局ヲシテ其ノ實施事務ヲ担当セシメヨウトスル所アリマス而シテ朝鮮ニ於ケル國土計畫事務ハ朝鮮ニ於ケル産業開發ハ從

來農業ヲ軸トシ鑛工業特ニ重工業ノ如キハ最近漸ク發展ノ緒ニ軌イタルカリス未ダ處女地ノ域ヲ脱セズ從ツテ其ノ意義ハ大キク而モ今日ヨリ之ヲ始メマシテモ容易ニ實現シ得ルト思ハレ机上ノ計畫ニ終ラシムルコトナク百年ノ大計タルト同時ニ數時下ノ要請ニ即應セシメタイト考ヘテ居リマス



## 五七 調査官設置ノ理由如何

國土計畫ハ政治的、經濟的、文化的ノ諸般ノ計畫ヲ土  
 地トノ關係ニ於キマシテ綜合的ニ合目的ニ構成致シ  
 マシテ國土ノ綜合的利用開發ノ計畫ヲ樹立スルノデア  
 リマス其ノ範圍ハ國防、經濟、人口、文化、保安等廣  
 汎デアリマシテ複雑多岐ニ亙ルノデ御座イマス又計畫  
 ノ策定ニハ固ヨリ大規模且周密ナル資料ノ蒐集及調査  
 研究ヲ必須ノ要件ト致シマシテ現存資料ノ蒐集整理及  
 之ニ次グ實體的調査研究並ニ計畫ノ策定立案ノ必要モ  
 御座イマス其ノ為ニ本事務ニ従事スル者ハ特殊ナル技  
 能ト學識經驗ヲ必要ト致シマスノデ新ニ調査官ヲ設置  
 シ特別任用ノ途ヲ拓キマシテ適材ノ銓衡配置ニ依リ本  
 事務遂行ノ圓滑ヲ期セントスルノデ御座イマス尙調査

官ハ差當リ國土計畫ノ調査立案ニ従事セシメルモノ  
 アリマスガ將來此ノ專問の事項ノ調査ニモ従事セシメ  
 ル豫定アリマス



五八 物價調整課ヲ企画部ニ移管スル理由如何

物價問題ハ戰時經濟ノ運営上其ノ中核的地位ヲ占メ  
而シテ價格統制ノ範圍ハ單ニ物ノ價格ニ止マラス運送  
賃、保管料、損害保險料、借貸料又ハ加工賃ニ及ビ  
此等價格ノ設定ニ付テハ債銀トノ調整増産トノ關聯  
等ニ付一貫セル見地ヨリ之ヲ行フベキハ勿論スアリ  
マスカ特ニ物資配給ノ調整ト關聯シテ之ヲシナケレ  
バナラナイ若シ價格統制事務ト配給調整事務トノ緊  
密ナル連絡ヲ缺ク場合ハ物資ノ偏在ヲ來シ又ハ價格  
統制ノ違反ヲ招ク虞カアルハ示アリマス殊ニ朝鮮ニ  
於テ從來公定ヲ致シマシタ商品ハ其ノ大部分が移入  
物資ナル關係ニ付リ價格統制ノ事務ハ移入物資ノ數  
量決定ニ關スル事務トモ連絡ハ必要ト考ヘルハ示ア

リマカ仍テ現在物價調整課ヲ殖産局ヨリ國家總動員  
計畫ノ設定及遂行ニ關スル綜合事務並ニ重要物資ノ  
配給調整事務ヲ掌理スル企画部ニ移管統合シ本事務  
處理ノ万全ヲ期シタイト考ヘルハ示アリマス



五九 企畫部主管事務ト厚生局ノ勞務事務及殖産局主管事務トノ關係如何

(一) 企畫部所管事務ト厚生局所管ノ勞務事務トノ關係

企畫部ニ於テハ物資ノ需給調整及物價調整ノ外國土計畫及國家總動員計畫ノ設定及遂行ニ關スル綜合事務ヲ掌リ從ツテ勞務ニ關スル事務ハ總動員計畫ノ一部タル限度ニ於テ企畫部ニ於テモ之ニ關與スルノデアリマスガ勞務ノ需給調整ニ關スル實施事務ニ付テハ技術者等ノ割當ヲ除クノ外一切實施事務ヲ執掌セズ之ヲ一般勞務行政ヲ主管スル厚生局勞務課ヲシテ取扱ハンメルコトトシ内地ニ於ケル企畫院ト厚生省トノ關係ニ立ツ譯デアリマス之ハ朝鮮ニ於ケル勞務事務ガ特ニ重要ナモノデアリ勞務需給調整ノ外一般勞務行政所管ノ關係モ

アリ又内地ニ對スル供給、鮮内需給ノ調整、一般統治トノ關係、地方廳ニ對スル敏速且具體的指示等企畫部ノ事務ノ性質ガ基本的、總括的事務ヲ爲スノニ對シ實施事務デアツテ企畫部ニ屬セシメルノハ適當デナク厚生局ニ於テ勞務行政ノ全分野ニ亘リ之ヲ掌ルコトトシタノデアリマス

(二) 企畫部所管事務ト殖産局所管事務トノ關係

企畫部ニ於テハ國土計畫並ニ總動員計畫ノ設定及遂行ニ關スル綜合事務ノ外物資需給調整及物價調整ノ事務ヲ掌リ殖産局ニ於テハ電氣及瓦斯事業ノ外工鑛、水産業ノ生産並ニ商業及貿易ニ關スル事務ヲ掌ルコトトナツテ居リマスガ物資ノ需給調整ニ付テハ生産ト密接ナル關係ガアルノデアリマスガ時局ニ緊要ナル重要物資ハ大部分内地

ニ依存シ其ノ物動計畫及之ニ基キ朝鮮ニ必要ナル物資ヲ調達スル事  
務ハ企畫部ニ於テ主管シテ居リマスノテ更ニ其ノ配給調整事務ヲモ  
同部ニテ爲サシメルノガ便デアリ且自然ノ事務ノ主管分野ト認メラ  
レマス殖産局ニ於ケル助長行政トノ關係ニ付テハ總督府ノ綜合行政  
機構タル特質ヲ活用シ緊密ナル連繫ヲ圖リ兩部局ノ事務遂行ニ遺憾  
ナキヲ期シタイ所存デアリマス

又物價調整事務ニ付テモ其ノ事務ガ物價政策ノ綜合、總動員計畫、  
物資需給調整等トノ關係ヨリ之ヲ企畫部ニ於テ所管スルヲ適當ト認  
メ今回所管ヲ殖産局ヨリ企畫部ニ移シマシタガ殖産局所管ノ物資ニ  
付テハ相互ニ緊密ナル連繫ヲ圖リ生産、配給等ニ付齟齬ナキヲ期シ  
タイト存ジテ居リマス

六〇 企畫部所管事務ヲ人的物的資源ノ統制運用ノ綜合的  
的業務ニ止メ物資配給事務ハ之ヲ生産主管局ニ移管ス  
ルヲ適當トセズヤ

朝鮮ニ於ケル人的物的資源ノ統制運用ノ綜合的業務ハ  
企畫部第一課ニ於テ主管シツアルガ朝鮮總督府ノ機  
構ハ總督、政務總監ノ下ニ綜合行政態ヲ爲シ又各局ト  
企畫部トノ連絡モ同一廳内ニ在リテ緊密ナルヲ以テ差  
當テ之以上綜合的業務ヲ擔當スル部局ノ擴充ヲ行フノ  
必要ナキモノト存セラレマス又物資配給事務ハ別項ハ  
六一項參照ニ述フル如ク重要物資ハ其ノ大部分ヲ内  
地ニ於テ調達スルノ實情ニシテ之ガ調達事務ト配給事  
務トハ企畫部ニ於テ合一處理スルヲ現状ニ於テハ事務  
ノ連絡上最モ圓滑ヲ期シ得ル譯アリマス尚右ノ趣旨

ニ基キ從來官房資源課ニ屬シタル事務ト殖産局物資調  
整課ニ屬シタル事務トヲ合一シテ企畫部ヲ設置シタル  
ヲ御座イマス



六一 物資ノ生産及配給ハ物資別ニ一貫作業的態勢ヲ執ルノ要アリト認ムルガ如何

(1) 設問ノ説ニハ原則的ニハ異議無キ所デアリマシテ朝鮮ニ於テ生産セラルル物資、例ヘバ農産物、鑛産物ノ如キニ付キマシテハ現ニ生産、配給ノ一貫作業的組織ニアルノデアリマス併シ大部分ノ時局ニ緊要ナル物資ニ付キマシテハ朝鮮ニ其ノ生産無キ現状ニ於キマシテハ自ラ別個ノ型態ヲ執ルノ外無キ次第テ御座イマス即チ朝鮮ニ於テハ鐵鋼機械等大部分ノ重要物資ノ管内生産乏シク此等ハ企畫部ニ於テ中央官廳及内地業者ニ交渉シ調達スルモノデアリマシテ之ガ配給モ同部ニ於テ掌ルハ寧ロ自然ノ流レト稱スベキデ恰モ商工省ニ於テ生産ヲ主掌スル部局ニ於テ配給ヲ掌ルト同様ノ關係テ御座イマス即チ内地ニ於テ「生産」「配給」ノ一貫的態勢ハ、大部分ノ物資ヲ内地ヨリ仰ガザルヘカテザル朝鮮ニ於テハ「調達」「配給」ヲ一貫的態勢ニ置クガ最モ自然ノ流ニ沿フモノト存ズル次第テ御座イマス

(2) 仍企畫部設置以前ニ於テハ官房資源課及殖産局物資調整課ノ兩課ガアリ又當時内地ニ於テハ商工省ニ物資調整局ガアリマシタ而シテ商工省ハ當時各局ヲ物資別ニ編成替シ物資調整局ノ事務ヲ此等ニ分屬セシメタノデアリマスガ朝鮮ニ於テハ當時此ノ邊ノ關係モ慎重考究ノ結果實情ニ鑑ミ物資調整課ノ事務ト資源課ノ事務トヲ統合シ企畫部ヲ設置シタ沿革ガアルノデアリマス

(3) 次ニ朝鮮ノ實情トシテハ昭和十四年企畫部設置以來漸次陣容ヲ

整へ部員モ事務ニ習熟シタル様ノ事情ニ御座イマシテ此ノ際之ヲ  
 解体スルトキハ少クトモ今後當分間朝鮮ニ於ケル物動事務ノ混乱  
 ヲ來シ時局下却テ支障アルヤニ存ゼラルル次第ヲ御座イマス

六二 朝鮮ニ於ケル重要物資ノ配給狀況如何

朝鮮ニ於テハ從來農産物ノ外物資ヲ主トシテ内地ニ依存シテ居リマシタ關係上尋變以來需給ハ圓滑ヲ缺ク部面モアリマシタ之ガ爲企畫院、商工省ト連絡致シ生産力擴充ニ必要ナル資材ト生活必需物資トノ確保ヲ圖リ之ガ配給ニツキマシテハ各種ノ配給統制ニ關スル法令ヲ發布シテ統制シ或ハ業者ノ自治的統制組合ヲ設立シテ配給調整ヲ圖ル等ノ手段ヲ講ジテ居リマス

特ニ内地ニ於テモ生産ヲ見ナイ地下資源ノ開發トカ其ノ他重要物資生産ノ爲必要ナル資材ニ付テハ特段ノ考慮ヲ拂ツテ居リマスノデ專變下兵站基地朝鮮ノ使命達成ニ遺憾ナキヲ期シテ居リマス

又生活必需物資ニ付キマシテモ民心ニ與ヘル影響等ヲ考慮致シ切符制度ノ如キハ出來得ル限り之ヲ避ケル様致シテ居ルノデアリマスガ國民總力運動等ニ依リ民衆モ帝國ノ聖戰遂行ノ意義ヲヨク理解致シ物資ノ不足ハ免レマセヌガ幸ヒ今日迄不平モ無ク圓滑ニ參ツテ居ルノデアリマス殊ニ農村ニ於テハ從來自給自足ノ狀態デアツタ關係モアリ更ニ米ノ供出ニ代ヘ麥又ハ粟ヲ供給シ、又綿布、ゴム靴~~靴~~供給モ特別ノ考慮ヲ致シテ居リマスルシ又工場、鑛山等ノ労働者ニ對シテハ食糧、地下足袋等ノ特別ノ考慮ヲ拂ヒ生産力擴充計畫ニモ支障ヲ來サナイ様致シテ居リマス

第五 司政局

M-0028

0097



六三 司政局設置ノ理由如何

別ニ述ズル如キ事由(十三項参照)ニ依リ現下厚生局ノ設置ヲ必須トシ之ニ伴ヒ總督府機構中産業經濟交通司法及教育事務ヲ主管スル部局ハ別トシ其ノ他ノ所謂一般行政事務ヲ主管スル總督官房、内務局及警務局ノ殘部並ニ外事部ノ主管スル事務ニ付部局ヲ可及的統合スル趣旨ノ下ニ其ノ再編成ヲ稽ハマスルニ(1)衛生事務分離後警務局ハ治安維持事務ニ專念スルコトトナリ適切ナル結果ト認メラレ(2)又官房國民總力課ハ別項ノ事由(六十七項参照)ニ依リ内務局ニ移スル適當ト認メラレ(3)次ニ朝鮮ニ於ケル内務事務ト外事事務トノ相関關係ヲ攻究スルニ内務局地方課ニ於テハ産業、教育、厚生土木等各種地方行政ノ運営

ニ関スル調整及綜合的業務ヲ管掌スルモノ又外事部ニ於テハ在外朝鮮人ニ對スル産業、教育、厚生等各種ノ施設及保護指導業務ヲ綜合實施シ又各局關係ノ涉外交渉ヲ統一處理スルモノアリマシテ兩者ハ共ニ總督府内外施政ノ扇ノ要ノ地位ニ在ルモノト謂フベキ不此ノ兩者ヲ合一スルコトヲ得ハ更ニ政策ノ一貫性、行政運営ノ一体性ヲ發揮シ得ルノ機構ナリト認メラルル次第アリマス

以上各種ノ事情ヨリシマシテ其ノ事務量モ考慮シテ内務局ニ屬スル地方課及土木課、外官房國民總力課ニ外事部ニ屬スル外務課及拓務課ヲ併セ五課ヲ以テ新ニ司政局ヲ組織シ從テ内務局ハ厚生局ト司政局ニ外事部ハ司政局ニ夫々吸收セラレテ發展的解消ヲ為スコトト致シマシタ

六四 外事部ハ昭和十四年設置セルニ今回又之ガ廢止ヲ行フ理由如何

外事部ハ昭和十四年從來官房ノ一部デアリマシタモノヲ官制上ノ部ニ改メタモノデアリマスガ時局ノ進展ニ伴ヒ總督府ニ於ケル行政機構ニ一大刷新ヲ加ヘル必要ニ迫ラレ他官廳事務再編成ノ趣旨ニ則リ部局ノ統合ヲ行フ必要アルヲ認メマシテ今回外事部ヲ廢止シ司政局ニ統合セントスルモノデアリマシテ之ガ廢止ハ部局ノ整理統合ノ精神ニ外ナラナイト同時ニ他面外事部ヨリ更ニ司政局ニ發展的解消ヲ遂ゲタモノト見ルコトヲ得ベク又外事部ノ新設セラレマシタ昭和十四年ヨリハ既ニ二年ヲ閱シ當時最モ重点ヲ置キマシタ處ノ朝鮮人

ノ滿洲開拓移民ノ事業モ漸ク軌道ニ乗ツテ參リマシタノテ之ヲ司政局ニ統合シマシテモ同局ノ機構ヲ整備シマシタナラバ支障ナキモノト認メラレマスノテ外事部ヲ廢止統合セントスルモノデアリマス



## 六五 外務部ノ所管事務ノ内容及分量如何

在外朝鮮人ノ保護撫育事務、移民事務、領事館 其ノ他トノ涉外事務ニ付キマシテハ從來總督官房ノ一課ト致シマシテ外事課ヲ置キ掌理セシメテ參リマシタガ其ノ事務ノ激増及複雑化ニ伴ヒマシテ昭和十二年七月朝鮮總督府訓令ヲ持チマシテ差當リ總督官房ノ一部トシテ外事部ヲ設置致シマシタ其ノ後朝鮮人ノ對滿移民頓ニ重要性ヲ加ヘルニ至リマシタト其ノ他ノ事務モ一層激増多岐ニ涉ルニ伴ヒマシテ昭和十四年八月總督官房ヨリ切離シ新ニ官制上ノ外事部ヲ設置致シマシテ外務及拓務ノ二課ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシメタノデアリマス其ノ所管事務ノ内容及分量ハ概ネ左ノ如クテ御座イマス

本府ハ昭和十一年ヨリ毎年一萬戶十五箇年間十五萬戶ノ朝鮮人ノ滿

洲移民計畫ヲ樹立致シマシテ現ニ實行中テ御座イマス之ガ移民ノ選定、訓練、輸送、呼寄家族ニ關スル處理、移住適地ノ調査、移民企業施設ノ調査研究、滿洲拓殖公司ニ對スル指導監督、内地人百萬戶入植計畫ニ伴フ内地人移民豫定地域内ニ於ケル散在浮浪セル鮮農ノ集結安定等ハ拓務課ノ主管事項デアリマシテ又時局ノ關係上領事館トノ交渉並ニ外國人關係事務、翻譯事務、海外ニ於ケル商況資料ノ蒐集調査、海外貿易業者貿易關係機關ニ對スル連絡斡旋等ノ涉外事務ニ付キマシテハ外務課ヲシテ之ヲ掌理セシメテ居リマス

尙新京、北京、張家口、青島、上海等ニハ總督府出張所ヲ設置致シマシテ滿洲國政府、中華民國政府、蒙疆政府、關東軍、支那駐屯軍ト直接折衝連絡ニ當ラシメマシテ在外朝鮮人ノ保護撫育ニ遺漏ナキヲ期シテ居ル次第テ御座イマス

六五ノ二 外事部廢止ニ伴ヒ其ノ所屬課ハ之ヲ厚生局、官房等ニ移管スルヲ適當トセズヤ

(1) 開拓移民ノ事務ハ勞務動員トノ關係モアリ從ツテ本事務ヲ掌ル拓務課ハ之ヲ厚生局ニ移管スルト言フコトモ考ヘラレルノデアリマスガ開拓移民ノ問題ハ單ニ勞務ノ關係ノミナラズ産業、經濟トノ關係ハ勿論一般統治ノ方針トノ關係ヲ考慮シテ解決シナケレバナライ問題デアリマスルシ事務的ニモ滿洲國、中華民國等トノ交渉多ク又移住後ノ指導撫育ニ關スル事務モアリマスノデ外務課ト同一ノ局長ノ下ニ置ク方ガ適當ト考ヘマス又一面朝鮮内外ニ於ケル朝鮮人ニ對スル一般の行政ヲ綜合實施スル爲司政局ヲ設ケマシタ趣旨ニ鑑ミマスルモ司政局所掌ト致シ度イト存ジマス

83/2

(四)

次ニ外務課ヲ官房ニ置クコトモ一應考ヘ得ルノデアリマスガ官房

ハ總督總監ニ直屬シ内部的事務ニ付總督總監ヲ輔佐スルヲ主トシテキルノデアリマスガ外務課ノ在外朝鮮人撫育ノ事務、外國人等涉外事項ニ關スル事務ハ對外折衝ヲ主トシ總督、總監ヲ内部的ニ輔佐スル性質ノ事務デアリマセンカラヤハリ之モ疆内疆外ノ朝鮮人ニ對スル一般の綜合的行政事務ヲ掌ル司政局ニ掌ラシメル方ガ適當デアルト存ジマス

(六) 尙海外商況ノ調査、貿易機關トノ連絡等ノ事務ヲ殖産局ニ移管スルトノ意見ハ誠ニ適當デアルト存ジマスガ別ニ貿易行政機構ノ改正ヲ考慮シテ居リマスノデ其ノ機會ニ併セテ考慮致シ善處致シ度イト存ジマス

六六 對滿支僑人移民ノ狀況及之ガ對策

本府ニ於キマシテハ國策上朝鮮人農民滿洲移住ノ方策ヲ講ズルコトノ緊要性ヲ認メマシテ昭和十一年度ヨリ向フ十五年間十五萬戶約七十五萬人ノ農民ヲ滿洲ニ移住スル計畫ヲ樹立致シマシテ著々移民事業ノ進行ニ當リ豫期ノ成績ヲ收メテ居リマス之ガ爲昭和十一年鮮滿拓殖株式會社ヲ設立致シマシテ滿洲移民ノ爲必要ナル土地ノ取得經營及處分、移民ノ募集及配分、移民ノ爲必要ナル資金ノ貸付、建築物ノ築造、賣買及貸借ニ關係アル事業經營ニ當ラシメツテアリマシタガ事業ノ一元化ヲ圖ル爲本年六月之ヲ滿洲拓殖公司ニ統合致シタノデ御座イマス尙資質優良ナル開拓民送出ノ爲朝鮮總督府滿洲開拓民志願者訓練所ヲ設置致シマシテ開拓民事業ノ圓滑ナル進展ニモ資

84

シテ居ル次第デ御座イマス

次ニ北支ニ在住スル朝鮮人ハ比年増加致シマシテ約十萬人ヲ算シ其ノ多クハ一定ノ職業ヲ持チマセズ大部分ハ密輸、禁制品ノ取扱ヲ爲ス狀況デアリマシテ之ガ生活安定ハ喫緊ノ要務デ御座イマスノデ北支ニ安全農村ヲ建設致シマシテ在北支朝鮮人一千戸ヲ收容致ス等其ノ他現地ニ於テ指導ヲ加ヘテ居リマス

六七 國民總力課ヲ司政局所管ニ移ス理由如何  
 總督官房國民總力課主管ノ國民總力運動ハ大改訂  
 運動  
 ト呼應シ朝鮮ニ於ケル國民總力發揮ノ新體制ヲ確立セ  
 ントスルモノデアリマシテ其ノ組織モ行政組織ト表裏  
 一體ノ關係ヲ爲シ地方行政事務ヲ主管スル部局ニ於テ  
 統合處理スルヲ適當ト認メラレ且本事務ノ如キ直接民  
 衆ノ指導ニ當ル執行的事務ハ官房ノ主管トスルニ適セ  
 ザルニモ鑑ミ之ヲ内務局ト併ニ新設ノ司政局ニ統合ス  
 ルヲトニ致シマシタ



六八 朝鮮ニ於ケル大政翼賛運動ノ狀況如何

大政翼賛運動ハ朝鮮ニ於テハ國民總力運動デアリマス即チ半島ノ特殊性ヨリ致シマシテ内地ニ於ケル夫レト異リ政治性ヲ有セズ、臣道實踐、職域奉公ノ所謂奉仕的實踐運動デアリマス

從ツテ其ノ根本精神ハ内地ニ於ケル大政翼賛運動ト異ナルトコロハナイノデアリマスガ其ノ内容、性質、方法、機構等ノ點ニ於テ次ノ如キ特異性ヲ有シテ居リマス

- 一、 内鮮一體ノ完成ヲ最高目標トス
- 二、 奉仕的實踐運動ニシテ政治運動ヲ含マズ
- 三、 經濟、産業、文化、各部門ノ運動ヲ擧ゲテ國民總力運動ニ統合包括シテ一元的運動體系ヲナスコト

四、 實踐機構ハ其ノ末端ニ至ルマデ行政機構ト全く表裏一體ヲナシ更ニ各種團體ヲモ洩レナク包括シテ居ルコト

五、 半島ノ現狀ニ鑑ミ指導陣營モ民間ノミニ委スルコトナク軍官民眞ニ協力一致萬全ノ機構ヲ整ヘテ居ルコト

本運動ノ指導機構トシテハ總督府ニ國民總力指導委員會ヲ設ケ基本方針ヲ審議シ、又總督府及各道ニ國民總力課ヲ設ケテ運動ノ指導及推進ヲナシテ居リマス

其ノ實踐機構ハ末端ニ至ルマデ行政機構ト表裏一體ヲ爲シ即チ朝鮮聯盟ノ總裁、副總裁ハ總督、政務總監之ヲ兼ネ川岸文三郎中將ヲ事務局總長トシ下部基底組織トシテ總ネ十員又ハ三十人内外ヲ以テ全鮮津々浦々ニ至ルマデ内地ノ隣里ニ類スル愛國班ヲ結成シ其ノ數三

十八萬、全鮮人口ヲ洩レナク包含シテ居リマス  
 本運動ノ綱領ハ「國體ノ本義ニ基キ内鮮一體ノ實ヲ擧ゲ各々其ノ職域  
 ニ於テ滅私奉公ノ誠ヲ捧ゲ協心戮力以テ國防國家體制ノ完成、東亞新  
 秩序ノ建設ニ邁進センコトヲ期スル」モノトシ其ノ實踐要綱ハ高度國  
 防國家體制ノ確立ヲ最高目標トシ思想ノ統一、國民總訓練、生産擴充  
 ヲ實踐三大目標トシ、更ニ之ヲ六ツノ實踐要目ニ分類次イテ三十四ノ  
 實踐事項ヲ定メ特ニ新附同胞ノ皇國臣民化ニ意ヲ用ヒツツナルノデア  
 リマス